

【】 酸・アルカリ

【】 酸性やアルカリ性の水溶液の性質

[BTB 溶液・リトマス]

[問題]

酸性の水溶液によって、赤色リトマス紙、青色リトマス紙、緑色の BTB 溶液の色はそれぞれどのように変化するか。

(鹿児島県)

[解答欄]

赤色リトマス紙：	青色リトマス紙：
緑色の BTB 溶液：	

[解答]赤色リトマス紙：変化なし 青色リトマス紙：赤色に変化 緑色の BTB 溶液：黄色に変化

[解説]

酸性の水溶液は、青色リトマス紙を赤色に変える。アルカリの水溶液は、赤色リトマス紙を青色に変える。「成績はさんざん」と覚えておくとよい。「成(青)績(赤)はさん(酸)ざん」

[リトマス紙]
酸：青→赤
アルカリ：赤→青

BTB溶液は、酸性では黄色、中性では緑色、アルカリ性では青色を示す。「ああ、サンキュー。ちみ(君)」と覚えておくとよい。「あ(アルカリ)あ(青)」，「サン(酸)キュー(黄)」，「ち(中性)み(緑)」

[BTB溶液]
酸：黄色
アルカリ：青色
中性：緑色

[問題]

食酢に BTB 溶液を加えると、水溶液の色は(緑色／青色／黄色)になる。文中の()より適語を選べ。

(熊本県)

[解答欄]

[解答]黄色

[解説]

食酢は酢酸を水にとかしたもので、弱い酸性を示す。酸性では BTB 溶液は黄色に変わる。

[問題]

次の文章中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

水酸化バリウム水溶液はアルカリ性であることから、水酸化バリウムの水溶液をつけたリトマス紙では、①(青色リトマス紙が赤色／赤色リトマス紙が青色)に変化したと考えられる。また、水酸化バリウム水溶液に BTB 溶液を加えたとなると、水溶液の色は②(青色／黄色)に変化すると考えられる。

(大阪府)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 赤色リトマス紙が青色 ② 青色

[問題]

酸性やアルカリ性を示す水溶液の性質を調べるために、BTB 溶液の代わりにムラサキキャベツのしぼり汁を使うことがある。うすい塩酸が入った試験管に、ムラサキキャベツのしぼり汁を加えると赤色に変化した。次の[]内の物質のうち、ムラサキキャベツのしぼり汁を加えると赤色を示すものはどれか、適切なものを 2 つ選べ。

[石灰水 レモンの汁 せっけん水 砂糖水 食酢]

(兵庫県)

[解答欄]

--

[解答]レモンの汁，食酢

[解説]

レモンの汁と食酢は酸性，石灰水と石けん水はアルカリ性，砂糖水は中性である。

[問題]

川の水をペットボトルに入れて学校に持ち帰った。持ち帰った川の水を、緑色のBTB 溶液を使って調べたところ、川の水は中性であることが分かった。下線部について、川の水が中性であることは、緑色のBTB溶液がどうなったことからわかるか。簡潔に書け。

(広島県)

[解答欄]

--

[解答]色が変化しなかったことから分かる。

[問題]

BTB 溶液のように水溶液の性質を調べる薬品を何というか。

(兵庫県)

[解答欄]

[解答]指示薬

[フェノールフタレイン液]

[問題]

次のうち、フェノールフタレイン溶液を加えても水溶液の色が赤色に変わらないものはどれか。すべてあげよ。

[アンモニア水 うすい塩酸 塩化ナトリウム水溶液 水酸化ナトリウム水溶液]

(大阪府)

[解答欄]

[解答]うすい塩酸, 塩化ナトリウム水溶液

[解説]

フェノールフタレイン溶液はアルカリ性であることを確認するための試薬で、アルカリ性であれば赤色に変化する。アンモニア水と水酸化ナトリウム水溶液はアルカリ性なの

で、フェノールフタレイン溶液を加えると水溶液の色が赤色に変わる。うすい塩酸(酸性)と塩化ナトリウム水溶液(中性)にフェノールフタレイン溶液を加えても色の変化は見られない。

[フェノールフタレイン溶液]
アルカリ性のみ赤色に変化

[問題]

フェノールフタレイン液は、水溶液に入れたとき、色に変化することがある。このとき、何色に変化することから、水溶液のどのような性質がわかるか、最も適当なものを下から1つ選び、その記号を書け。

- ア 青色に変化することから、水溶液が酸性であることがわかる。
- イ 青色に変化することから、水溶液がアルカリ性であることがわかる。
- ウ 赤色に変化することから、水溶液が酸性であることがわかる。
- エ 赤色に変化することから、水溶液がアルカリ性であることがわかる。

(三重県)

[解答欄]

[解答]エ

[pH]

[問題]

次の文中の①，②にあてはまる語句を書け。

酸性やアルカリ性の度合いは，0～14 の(①)という数値で表せる。(①)の値が 7 のとき中性で，値が 7 より大きいほど(②)性が強い。

(茨城県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① pH ② アルカリ

[解説]

さんせい酸性・アルカリ性の強さを表すのに，pH(ピーエイチ)が用いられる。じゅんすい純粋な水(中性)のpHは 7である。pHの値が 7 より小さいとき，その水溶液は酸性で，数値が小さいほど酸性が強くなる。pHの値が 7 より大きいとき，その水溶液はアルカリ性で，数値が大きいほどアルカリ性が強くなる。

[pHさん(酸)は7より小]
pH 1 ←———— 7 —————→ 14
酸性 中性 アルカリ性

[問題]

酸の水溶液に共通する性質を学んだ里奈さんは，温泉水にも酸性のものがあることを知り，興味をもった。そこで，山形県内の四カ所の温泉に行き，採取した温泉水 A～D の pH を測定した。次の表はその結果である。酸性の温泉水はどれか，あてはまるものを A～D の記号で答えよ。

温泉水	A	B	C	D
pH	9.4	7.0	2.5	8.0

(山形県)

[解答欄]

[解答]C

[解説]

pH が 7 より小さい C が酸性である。pH が 7 より大きい A と D はアルカリ性で、pH が 7 である B は中性である。

[問題]

水溶液の酸性、アルカリ性の強さを表すのに pH が用いられる。次のア～ウを、pH の値の小さい順に並べて記号で書け。

ア 純粋な水 イ うすい塩酸 ウ うすい水酸化ナトリウム水溶液

(山梨県)

[解答欄]

--

[解答]イ, ア, ウ

[解説]

アの純粋な水は中性で pH は 7 である。イのうすい塩酸は酸性で pH は 7 より小さい。ウのうすい水酸化ナトリウム水溶液はアルカリ性で pH は 7 より大きい。

[問題]

雨水を調べたところ pH は 5 であった。次の各問いに答えよ。

- (1) この雨水に BTB 溶液を加えると何色になるか。
- (2) この雨水を中和することができる物質はどれか、次の[]から 1 つ選べ。

[エタノール 水酸化カリウム水溶液 塩化ナトリウム水溶液 酢酸]

(石川県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 黄色 (2) 水酸化カリウム水溶液

[解説]

(1) pH が 7 より小さいので、この雨水は酸性である。酸性の水溶液に BTB 溶液を加えると黄色になる。

(2) 酸性の水溶液を中和するためにはアルカリ性の水溶液を使う。[]の中でアルカリ性を示すのは、水酸化カリウム水溶液である。エタノールと塩化ナトリウム水溶液は中性、酢酸は酸性である。

[酸と水素イオン]

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 酸の水溶液に共通して含まれるイオンの①名まえと、②イオンの記号を書け。
- (2) 塩化水素が水溶液中で電離するときのようすをイオンの記号で表せ。

(補充問題)

[解答欄]

(1)①	②	(2)
------	---	-----

[解答](1)① 水素イオン ② H^+ (2) $HCl \rightarrow H^+ + Cl^-$

[解説]

「青色リトマスを変色させる」、^{あえいん}「亜鉛などの金属をいれると水素が発生する」など、酸に共通の性質は何が原因なのか。また、そもそも酸とは何なのか。

代表的な酸としては、^{えんさん}塩酸(HCl)、^{りゅうさん}硫酸(H_2SO_4)、^{しゅうさん}硝酸(HNO_3)、^{たんさん}炭酸(H_2CO_3)があるが、これらの化学式を見てみると、共通して水素原子(H)が含まれていることに気づくはずである。酸はすべて^{でんかいしつ}電解質で、水溶液中では、それぞれ次のように電離している。

塩酸： $HCl \rightarrow H^+ + Cl^-$

硫酸： $H_2SO_4 \rightarrow 2H^+ + SO_4^{2-}$

硝酸： $HNO_3 \rightarrow H^+ + NO_3^-$

炭酸： $H_2CO_3 \rightarrow 2H^+ + CO_3^{2-}$

電離したときに、どの酸でも水素イオン(H^+)が生じるが、この H^+ こそ酸の正体なのである。「青色リトマスを変色させる」などの酸の性質は H^+ のはたらきによるものである。そして、「酸とは、水にとかしたとき、電離して水素イオン(H^+)になることができる水素原子(H)をもった化合物である」ということができる。

[酸と水素イオン]

酸：電離したとき

H^+ (水素イオン)

[問題]

酸性を示す水溶液に亜鉛やマグネシウムを入れたときの反応について述べたものとして適切なのは、次のうちではどれか。

- うすい塩酸に亜鉛やマグネシウムを入れると反応し酸素が発生する。
- うすい塩酸に亜鉛やマグネシウムを入れると反応し水素が発生する。
- うすい硫酸に亜鉛やマグネシウムを入れると反応し二酸化炭素が発生する。
- うすい過酸化水素水に亜鉛やマグネシウムを入れると反応し酸素が発生する。

(東京都)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

イが正しい。イの反応は、イオン化傾向で説明できる。亜鉛の場合で説明する。

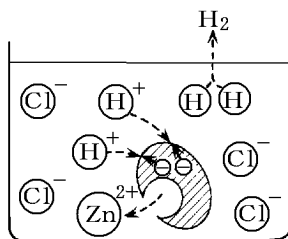
亜鉛(Zn)は水素(H)よりもイオンになり

やすいので、電子 2 個を放出してイオンになる

($Zn \rightarrow Zn^{2+} + 2e^-$)。放出された電子は、水素イオン(H^+)が取り込み($2H^+ + 2e^- \rightarrow H_2$)、水素となって発生する。その結果水溶液中の水素イオン(H^+)は減少し、亜鉛イオン(Zn^{2+})が増加していく。いっぽんに、塩酸や硫酸などの酸性を示す水溶液に亜鉛やマグネシウムなどの金属を入れると水素が発生する。

[イオン化傾向]

Mg(マグネシウム) > Zn(亜鉛) > H(水素) > Cu(銅)



[問題]

塩酸の性質として正しいものを、次のア～エのうちから 1 つ選び、その記号を書け。

ア 緑色の BTB 溶液を青色に変化させる。

イ 赤色のリトマス紙を青色に変化させる。

ウ 水酸化ナトリウム水溶液と反応し、水素を発生する。

エ マグネシウムリボンと反応し、水素を発生する。

(岩手県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

アは誤り。塩酸は酸性なので、BTB 溶液を黄色に変える。

イは誤り。酸性の場合、青色リトマス紙が赤色に変わる。

ウは誤り。塩酸(酸性)と水酸化ナトリウム(アルカリ性)を反応させると中和反応が起こり、水と塩化ナトリウムができる。気体は発生しない。

エは正しい。塩酸にマグネシウム、亜鉛などの金属を入れると水素が発生する。また、塩酸に石灰石を入れると二酸化炭素が発生する。

[問題]

塩酸は、ある気体が水にとけてできている。その気体の名称を書け。

(福岡県)

[解答欄]

[解答]塩化水素

[解説]

塩酸は塩化水素という気体を水にとかしたもので、酸性を示す。

[アルカリと水酸化物イオン]

[問題]

水溶液がアルカリ性を示すもとなるイオンは何か。名称を書け。

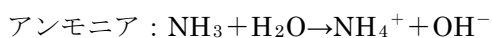
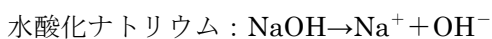
(栃木県)

[解答欄]

[解答]水酸化物イオン

[解説]

代表的なアルカリとしては、^{すいさんか}水酸化ナトリウム (NaOH)、アンモニア(NH₃)があるが、水溶液中では、次のように^{でんり}電離している。



電離したときに、どのアルカリでも^{すいさんかぶつ}OH⁻(水酸化物イオン)が生じるが、このOH⁻こそアルカリの性質をもたらすものなのである。

「アルカリとは、水にとかしたとき電離して水酸化物イオン(OH⁻)を生じる化合物である」ということができる。

[アルカリと水酸化物イオン]

アルカリ:電離したとき

OH⁻(水酸化物イオン)

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 水酸化ナトリウムが水溶液中で電離するときのようすをイオンの記号で表せ。
 - (2) アルカリの水溶液に共通して含まれるイオンの①名まえと、②イオンの記号を書け。
- (補充問題)

[解答欄]

(1)	(2)①	②
-----	------	---

[解答](1) $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$ (2)① 水酸化物イオン ② OH^-

[問題]

次のような水溶液の性質を調べる実験について、その結果を正しく説明しているものはどれか。ア～エの記号で書け。

ア うすいアンモニア水を青色リトマス紙につけると赤色になる。

イ せっけん水を赤色リトマス紙につけると青色になる。

ウ 石灰水に緑色の BTB 溶液を加えると黄色になる。

エ 塩酸に緑色の BTB 溶液を加えると青色になる。

(長崎県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

アンモニア水やせっけん水や石灰水はアルカリ性を示す。アルカリ性の溶液は赤色リトマス紙を青色に変える。また、アルカリ性の水溶液に BTB 溶液を加えると水溶液は青色に変化する。塩酸は酸性なので、BTB 溶液を加えると黄色に変化する。

[問題]

水の電気分解の実験を行っていたとき、水酸化ナトリウム水溶液が手についた。このとき、すぐに行わなければならない処置は何か。次のア～エから最も適当なものを1つ選び、その記号を書け。

ア すぐに、うすい塩酸で中和する。

イ すぐに、氷で冷やす。

ウ すぐに、大量の水で洗い流す。

エ すぐに、乾いたタオルでふく。

(愛媛県)

[解答欄]

[解答]ウ

【解説】

水酸化ナトリウムは強いアルカリ性を示し、手に付着すると皮膚をとかす作用がある。水酸化ナトリウムが手についたときは、すぐに大量の水で洗い流すことが必要である。

【問題】

水酸化ナトリウム水溶液などのアルカリ性の水溶液を扱うとき、誤ってアルカリ性の水溶液が手についたり、目に入ってしまった場合、すぐに、どのような処置をすればよいか。簡単に書け。

(香川県)

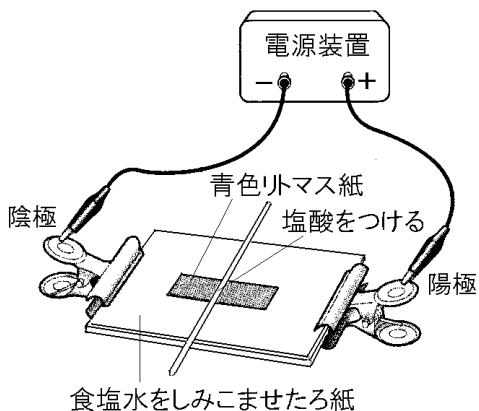
【解答欄】

【解答】すぐに大量の水でよく洗い流す。

【】イオンの移動の実験

[問題]

右図のように、スライドガラスの上に食塩水をしみこませたろ紙をのせ、その上に青色リトマス紙を置き、青色リトマス紙の中央にうすい塩酸をしみこませた糸を置いた。このとき、青色リトマス紙の中央部分に赤色のしみができた。その後、スライドガラスの両端をクリップでとめ、電源装置につないで電圧をかけたところ、青色リトマス紙の中央部分にできた赤色のしみは陰極側に広がっていった。次の文は、この実験について考察したものである。文中の①については()内から正しいものを選び。また、②には当てはまるイオン式を書け。



青色リトマス紙を赤色に変えたのは、電圧をかけたとき赤色のしみが陰極側に広がったことから、陰極側に移動した①(陽イオン/陰イオン)である塩酸中の(②)であると考えられる。

(群馬県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 陽イオン ② H^+

[解説]

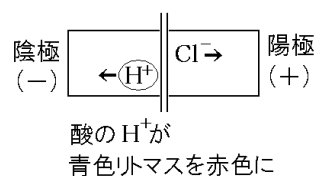
酸は青色リトマス紙を赤色に変えるが、それは酸の中の水素イオン(H^+)の働きによるものである。

塩酸は、 $HCl \rightarrow H^+ + Cl^-$ のように電離しているが、青色リトマス紙の中央にうすい塩酸をしみこませた糸を置いたとき、青色リトマス紙の中央部分に赤色のしみができたのは、この水素イオン(H^+)の働きによるものである。

電圧をかけると、 H^+ (水素イオン, 陽イオン)は陰極(一極)に引かれて左側に移動する。これにともなって、赤色のしみが陰極側に広がっていく。

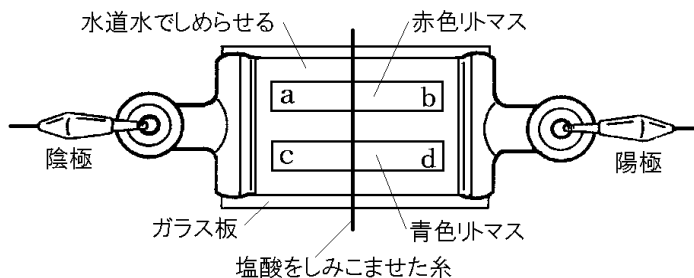
Cl^- (塩化物イオン)は陽極(+極)に引かれて右側へ移動するが、 Cl^- はリトマス紙の色の变化をもたらすことはない。

なお、食塩水をしみこませたろ紙を使うのは、電流が流れるようにするためである。



[問題]

図のように、ガラス板の上に水道水でしめらせたろ紙を置き、その上に赤色リトマス紙と青色リトマス紙をのせた。次に、塩酸をしみこませた糸をリトマス紙の上に置いて、ろ紙の両端に電圧を数分間かけたところ、リトマス紙の色に変化が起こった。この変化について述べた文として最も適当なものを、下のア～エの中から選んで、そのかな符号を書け。



- ア 赤色リトマス紙の糸の周辺が青色に変わり、その部分が a の方向へ広がった。
- イ 赤色リトマス紙の糸の周辺が青色に変わり、その部分が b の方向へ広がった。
- ウ 青色リトマス紙の糸の周辺が赤色に変わり、その部分が c の方向へ広がった。
- エ 青色リトマス紙の糸の周辺が赤色に変わり、その部分が d の方向へ広がった。

(愛知県(旧))

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

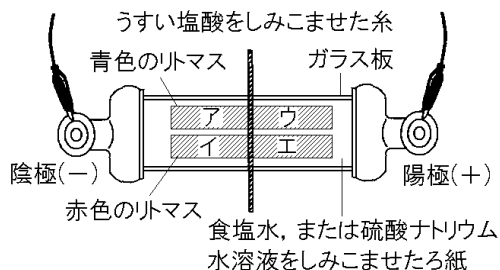
塩酸は水溶液中では、 $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ のように電離している。電離によって生じた水素イオン(H^+)が酸の性質をもたらし、青色リトマス紙を赤色に変える。

異なる電気は引き合うので、塩酸をしみこませたろ紙の中の H^+ は陰極(一極)に引かれて図の左方向へ移動する。(Cl^- (塩化物イオン)は陽極(+極)に引かれて右方向へ移動する。)

これによって、青色リトマスの左部分(中央～c)が H^+ のはたらきで赤色に変化する。

[問題]

ガラス板の上に、食塩水、または硫酸ナトリウム水溶液をしみこませたろ紙をのせ、その上に青色のリトマス紙と赤色のリトマス紙を置いた。さらに、うすい塩酸をしみこませた糸を両方のリトマス紙にかかるように中央に置いた。次に、



両端を電極用のクリップではさんで電源につなぎ電流を流した。図は、このときのようなすを示したものである。しばらくすると、図のリトマス紙のア～エのうち1か所で、リトマス紙の色が変化し、その変化した部分が電極側にしだいに広がっていくようすが観察できた。

- (1) 実験で、純粋な水ではなく、食塩水または硫酸ナトリウム水溶液をろ紙にしみこませた理由を書け。
- (2) 実験の図のリトマス紙のア～エのうち、電流を流したときに、色の変化した部分が電極側にしだいに広がっていくようすが観察できたのはどこか。図のア～エの中から1つ選び、その記号を書け。
- (3) ①②で選んだ場所において、リトマス紙の色が変化する理由を、関係するイオンの名称を用いて書け。②さらに、リトマス紙の色の変化した部分が電極側に広がっていく理由を書け。

(埼玉県)

[解答欄]

(1)	(2)
(3)①	
②	

[解答](1) 電流が流れるようにするため。 (2) ア (3)① 塩酸中に水素イオンが含まれているから。 ② 水素イオンは陽イオンであるため陰極側に引き寄せられるから。

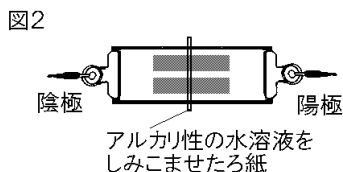
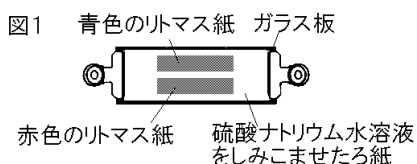
[解説]

(1) 純粋な水は電気を通しにくい。電気を流れやすくするために、食塩水、または硫酸ナトリウム水溶液をろ紙にしみこませる。

(2)(3) 塩酸は水溶液中では、 $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ のように電離している。酸は青色リトマス紙を赤色に変えるが、これは水素イオン(H^+)のはたらきによる。+の電気をもつ H^+ は陰極(一極)に引かれて移動する。したがって、陰極側にある青色リトマスのアが赤色に変化する。

[問題]

右の図1のように、硫酸ナトリウム水溶液をしみこませたる紙を金属製のクリップでガラス板に取り付け、そのろ紙の上に青色と赤色のリトマス紙を置く。次に、図2のように、図1の装置にアルカリ性の水溶液をしみこませた糸を置き、一方のクリップを陽極、もう一方を陰極として電圧を加え、リトマス紙の色の変化を調べた。



(1) 次の文章は、この実験の結果について述べたものである。次の文章中の①～③の()内からそれぞれ適語を選べ。

図のようにアルカリ性の水溶液をしみこませた糸を置くと、①(青色／赤色)のリトマス紙の糸にふれた部分の色が変わり、装置に電圧を加えると、色が変わった部分がしだいに②(陽極／陰極)側へ広がった。このことから、アルカリ性の水溶液に含まれる③(陽イオン／陰イオン)が、①のリトマス紙の色を変えると考えられる。

(2) 実験においてリトマス紙の色を変えるイオンは何イオンか。

(京都府)

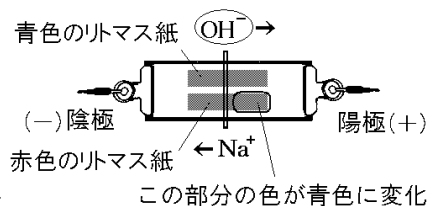
[解答欄]

(1)①	②	③	(2)
------	---	---	-----

[解答](1)① 赤色 ② 陽極 ③ 陰イオン (2) 水酸化物イオン

[解説]

アルカリ性の水溶液として、水酸化ナトリウム水溶液の場合で説明する。水酸化ナトリウムは、水溶液中では、 $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$ のように電離している。アルカリの水溶液は赤色リトマス紙を青色に変えるが、これは OH^- (水酸化物イオン)のはたらきによるものである。アルカリ性の水溶液をしみこませた糸を置くと、赤色のリトマス紙の糸にふれた部分が青色に変化するのはこのためである。



装置に電圧をかけると、陰イオンである OH^- は陽極(+極)に引かれて、図の右側に移動し、赤色リトマスの右側の部分の色が青色に変化していく。

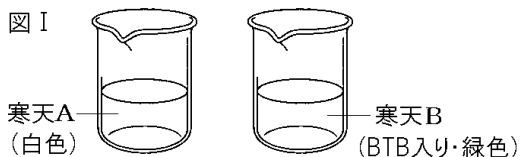
なお、ナトリウムイオン(Na^+)は陰極(-極)に引かれて左側に移動するが、 Na^+ はリトマス紙の色を変えることはない。

[問題]

イオンの性質について調べるため、次のような実験を行った。これについて、後の各問いに答えよ。

(実験)

- ① 2つのビーカーに純粋な水を入れそこに電解質である硫酸ナトリウムを少量加えてとかけた。さらに、一方のビーカーにのみ BTB 溶液を加えた。



- ② ①の水溶液に寒天を加えて加熱したのち、室温に冷まして固め、図 I のように 2 種類の寒天 A, B とした。
- ③ 透明なストローを寒天 A, 寒天 B, 寒天 A の順にさし、両側から炭素電極をおしこんで、図 II のような状態にした。



- ④ 図 III のように、ストローの中央部にカッターナイフで切りこみを入れうすい塩酸をしみこませたろ紙をはさみ、「ストローでつくった装置」とした。



- ⑤ ④の「ストローでつくった装置」を 5 分間放置した。
- ⑥ ⑤で放置した「ストローでつくった装置」の両端に電源装置をつなぎ、電圧を 10 分間加えた。

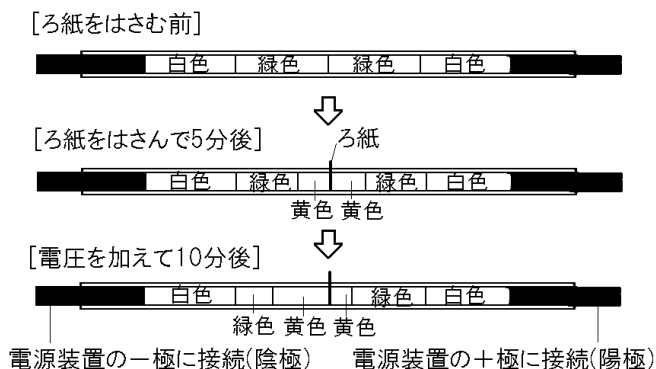
- (1) ①で、硫酸ナトリウムを加えたのはなぜか。次のア～エのうちから、その理由として最も適当なものを 1 つ選び、その記号を書け。

- ア 寒天を固めやすくするため。
- イ 電流を流しやすくするため。
- ウ pH の値を変化させやすくするため。
- エ BTB の色を変化させやすくするため。

- (2) ④～⑥で、ストロー内の寒天の色は、次のように変化した。

ろ紙の両側の黄色の部分は、ろ紙をはさんで 5 分後は両側とも同じはばであったが、電圧を加えて 10 分後には、陰極側で広くなり、陽極側でせまくなった。

①寒天の色を黄色に変化させたイオンは何か。②また、下線部のように変化した理由を、イオンの性質にふれて簡単に説明せよ。



(岩手県)

[解答欄]

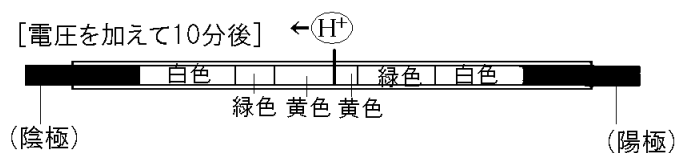
(1)	(2)①
②	

[解答](1) イ (2)① 水素イオン ② 水素イオンは+の電気を帯びているため陰極側に移動するから。

[解説]

(1) 純粋な水は電気を通しにくいので、電解質である硫酸ナトリウムを加えて、電流を流しやすくする。

(2) 塩酸は水溶液中では、 $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ のように電離している。 H^+ (水素イオン)はBTB溶液を黄色に変えるので、ろ紙の両側の部分が黄色になる。電圧を加えると、+の電気を帯びた H^+ (水素イオン)は陰極に引かれて左側に移動するので、「電圧を加えて10分後には、陰極側で広くなり、陽極側でせまくなる。」



【】 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化

【】 中和・塩

[中和]

[問題]

塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えて反応させた。この反応は何というか。反応名を書け。

(福井県)

[解答欄]

[解答] 中和

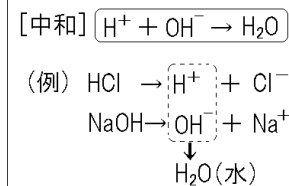
[解説]

水溶液中に H^+ (水素イオン)と OH^- (水酸化物イオン)があると、この2つのイオンはすぐに結びつく。すなわち、

$\text{H}^+ + \text{OH}^- \rightarrow \text{H}_2\text{O}$ という中和が起こって水ができる。

例えば、塩酸($\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$)の中に、適量の水酸化ナトリウム水溶液($\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$)をいれると、

$\text{H}^+ + \text{OH}^- \rightarrow \text{H}_2\text{O}$ という反応(中和)がおこり、水溶液中には、 H^+ (水素イオン)も OH^- (水酸化物イオン)も存在しなくなる(正確には、それぞれごく少量存在するのだが)。その結果、水溶液は酸性でもアルカリ性でもなくなり、中性になる。



[問題]

うすい塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えると中和が起こり、塩化ナトリウムと()ができた。文中の()に適語を入れよ。

(香川県)

[解答欄]

[解答] 水

[解説]

うすい塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えると中和が起こり、塩化ナトリウムと水ができる。これを、化学反応式で表すと、 $\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$ となる。

[問題]

うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液を混ぜたときに起こる反応を、化学反応式で表せ。

(埼玉県)

[解答欄]

[解答] $\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$

[解説]

中和の化学反応式で、よく出てくるのは、次の2つである。

うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液： $\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$

うすい硫酸とうすい水酸化バリウム水溶液： $\text{H}_2\text{SO}_4 + \text{Ba}(\text{OH})_2 \rightarrow \text{BaSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$

[問題]

2種類の水溶液を混ぜ合わせると中和が起こるのは、次のうちではどれか。

ア 食塩水と砂糖水

イ 砂糖水とうすい塩酸

ウ 食塩水とうすい水酸化ナトリウム水溶液

エ うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液

(東京都)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

食塩水や砂糖水は中性。塩酸は酸性、水酸化ナトリウムはアルカリ性である。中和が起こるのは酸とアルカリを反応させたときである。

[問題]

次の文中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

水酸化ナトリウム水溶液を塩酸で①(酸化／還元／中和)すると、水溶液の温度が上がるのは、この化学変化で熱エネルギーが②(放出される／吸収される)ためである。

(福島県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 中和 ② 放出される

[解説]

中和反応が起きるときには熱が発生する。

[中和と試薬の変化]

[問題]

アンモニアを水にとかして水溶液をつくり、この水溶液にBTB溶液を数滴加えた。これにうすい塩酸を少しずつ加えていくと、水溶液が中性になり、溶液の色が変化した。次の各問いに答えよ。

(1) 下線部の溶液の色の変化を、次の中から1つ選べ。

[青色から緑色 青色から赤色 黄色から緑色 赤色から青色]

(2) 下線部で起こったこのような反応を何というか。

(茨城県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 青色から緑色 (2) 中和

[解説]

BTB溶液は酸性のときは水素イオン(H^+)のはたらきで黄色になる。中性では緑色になり、アルカリ性では水酸化物イオン(OH^-)のはたらきで青色になる。

アンモニア水溶液にBTB溶液を加えると、アンモニア水の中の水酸化物イオン(OH^-)のために液の色は青色になる。これに酸性の塩酸を加えていくと、塩酸中の水素イオン(H^+)が、水酸化物イオン(OH^-)と結びつく中和が起こる。加えた塩酸の量が少ないときは、まだ反応していない水酸化物イオン(OH^-)のために液は青色のままである。

塩酸を加え続けていくと、アンモニア水の中の水酸化物イオン(OH^-)のすべてが、塩酸中の水素イオン(H^+)と過不足なく中和して、水溶液中に水素イオン(H^+)も水酸化物イオン(OH^-)もほとんど存在しない状態になる。このとき、水溶液は中性になり、液の色は緑色になる。さらに、塩酸を加えると、水酸化物イオン(OH^-)がもはや存在しないため、塩酸中の水素イオン(H^+)は増加していくことになる。そのため、水溶液は酸性になり、水溶液の色は黄色になる。

[問題]

うすい水酸化ナトリウム水溶液をビーカーにとった。この水溶液に、ガラス棒でかき混ぜながら、うすい塩酸をこまごめピペットで1滴ずつ加えて、酸性もアルカリ性も示さなくなったところで、塩酸を加えるのをやめた。下線部のことを知るためには、ある薬品を水溶液に加えて水溶液の色の変化を見るとよい。①その薬品は何か。フェノールフタレイン溶液以外で答えよ。②また、水溶液は何色から何色に変化するか。

(山口県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① BTB 溶液 ② 青色から緑色に変化する。

[廃液の中和]

[問題]

アンモニアを発生させる実験後に残る液は、赤色リトマス紙を青色に変えた。環境に配慮し、これを中和して水でうすめて流す場合、中和に用いられる最も適切な溶液を、次から1つ選べ。

[うすい水酸化カリウム水溶液 うすい塩酸 石灰水 炭酸ナトリウム水溶液]

(長野県)

[解答欄]

--

[解答]うすい塩酸

[解説]

実験後、不要になった酸やアルカリの水溶液は、そのまま捨てるとう環境汚染につながるので、中和してから捨てるようにしなければならない。アンモニア水溶液はアルカリ性なので、酸性の水溶液で中和する。[]の中で酸性であるのはうすい塩酸である。

[問題]

不要になった水酸化ナトリウム水溶液は、環境への影響を考えて、どのような処理をすればよいか、簡単に説明せよ。

(長崎県)

[解答欄]

--

[解答]酸を加えて中和させる。

[塩]

[問題]

酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせるとき、水とともにできる物質を何というか。

(栃木県)

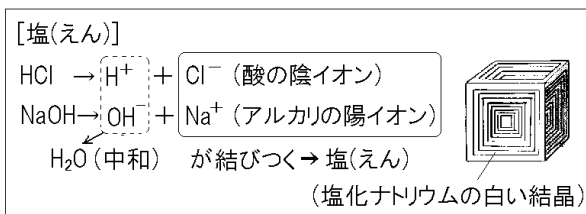
[解答欄]

--

[解答]塩

[解説]

酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせるとき、水とともにできる物質を塩^{えん}という。例えば、塩酸^{えんさん}($\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$)の中に適量^{てきりょう}の水酸化ナトリウム水溶液($\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ +$



OH^-)をいれると、 $\text{H}^+ + \text{OH}^- \rightarrow \text{H}_2\text{O}$ という反応(中和)^{ちゅうわ}がおり、中和後の水溶液中には、 Na^+ (ナトリウムイオン)と Cl^- (塩化物イオン)^{えんかぶつ}が残る。これを加熱して水分^{じょうはつ}を蒸発させてやると、 Na^+ と Cl^- が結びついて NaCl (塩化ナトリウム)の白い結晶^{けっしょう}ができる。このように、酸^{いん}の陰イオン(この場合は Cl^-)とアルカリ^{よう}の陽イオン(この場合は Na^+)が結びついてできた物質(この場合は NaCl)を一般に塩^{えん}という。

[問題]

次の文章中の①、②に適語を入れよ。

酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせると、それぞれの性質を打ち消し合う中和という反応が起こる。中和によって、水と同時にできる物質を(①)とよぶ。食塩は、酸性の水溶液である(②)に水酸化ナトリウム水溶液を加えるとできる(①)である。

(岐阜県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 塩 ② 塩酸

[解説]

塩酸^{えんさん}(酸性)と水酸化ナトリウム(アルカリ性)をまぜると、 $\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{NaCl}$ という中和^{ちゅうわ}がおり、水とともに塩化ナトリウム(NaCl)という塩ができる。

[問題]

次の文章中の①に適語を入れ，②，③の()内からそれぞれ適語を選べ。

酸の陰イオンとアルカリの陽イオンが結びついてできた物質を(①)という。うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液が反応してできた(①)は，水に②(とける／とけない)。うすい硫酸とうすい水酸化バリウム水溶液が反応してできた(①)は，水に③(とける／とけない)。

(香川県)

[解答欄]

①	②	③
---	---	---

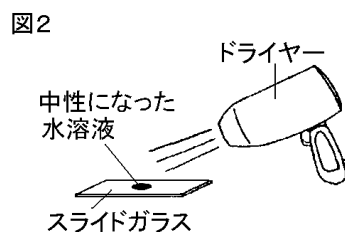
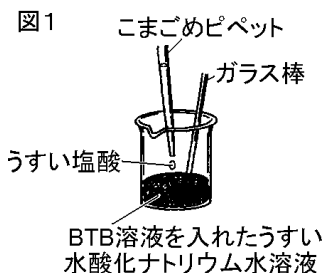
[解答]① 塩 ② とける ③ とけない

[解説]

酸の陰イオンとアルカリの陽イオンが結びついてできた物質を塩という。うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液を反応させると， $\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$ の中和が起きて，水と塩である塩化ナトリウム(NaCl)ができる。塩化ナトリウムは水溶液中ではイオン(Na^+ と Cl^-)に分かれるため，水にとける。うすい硫酸とうすい水酸化バリウム水溶液を反応させると， $\text{H}_2\text{SO}_4 + \text{Ba}(\text{OH})_2 \rightarrow \text{BaSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$ の中和が起きて，水と塩である硫酸バリウム(BaSO_4)ができる。硫酸バリウムはイオンに分かれないため，水にとけず白い沈殿として出てくる。

[問題]

図1のように，BTB溶液を入れたうすい水酸化ナトリウム水溶液に，ガラス棒でかき混ぜながらうすい塩酸をこまごめピペットで1滴ずつ加え，中性になったところで加えるのをやめた。



次に，図2のように，中性になった水溶液をスライドガラスに1滴取り，ドライヤーを用いて水を蒸発させたら，白い固体が残った。次の各問いに答えよ。

- (1) 図1の水溶液は何色から何色に変化したか。
- (2) 白い固体は何か，化学式を書け。

(青森県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 青色から緑色 (2) NaCl

[解説]

BTB 溶液は、アルカリ性では青色，中性では緑色，酸性では黄色になる。うすい水酸化ナトリウム水溶液はアルカリ性なので，最初，水溶液の色は青色である。うすい塩酸を加えて中性にすると，水溶液の色は緑色になる。

[問題]

炭酸水素ナトリウムとうすい塩酸とを反応させると塩化ナトリウムができる。炭酸水素ナトリウムのほかに，どんな化合物をうすい塩酸と反応させると塩化ナトリウムができるか。反応させる化合物の物質名を 1 つ答えよ。

(熊本県)

[解答欄]

[解答]水酸化ナトリウム

[解説]

うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液の中和によって，水と塩化ナトリウム(食塩)ができる反応($\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{NaCl} + \text{H}_2\text{O}$)は出題頻度が高い。

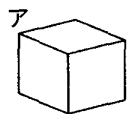
参考までに，炭酸水素ナトリウムとうすい塩酸とを反応させときの式は，



[塩化ナトリウムの結晶]

[問題]

塩酸 5cm^3 とうすい水酸化ナトリウム水溶液 4cm^3 を入れ，よくかき混ぜ，緑色の BTB 溶液を 2 滴加えたところ青色になった。この溶液を中性にするためにうすい塩酸を 1 滴ずつ加え，よくかき混ぜた。3 滴加えたところで溶液が緑色になった。緑色になった溶液全部を蒸発皿にとり，ガスバーナーで加熱したところ白色の固体が残った。白色の固体をルーペや顕微鏡で観察したところ，結晶が見えた。結晶のようすを次のア～エから 1 つ選び，記号で答えよ。



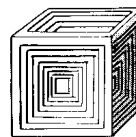
(富山県)

[解答欄]

[解答]ア

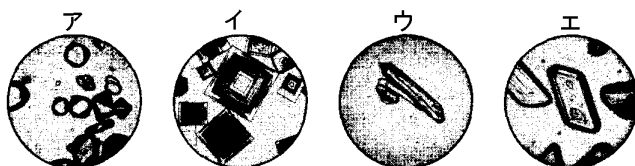
[解説]

うすい塩酸に水酸化ナトリウムを加えると、 $\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{NaCl}$ という中和がおこる。これを蒸発させると、右図のような塩化ナトリウム (NaCl) の白色の四角い結晶ができる。



[問題]

うすい塩酸を 20cm^3 入れたビーカーに、うすい水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていくと、 30cm^3 加えたところで、水溶液の色が緑色になった。緑色になった水溶液の一部をスライドガラス上にとり、ゆっくりと水を蒸発させると白い物質が現れたので、この白い物質を顕微鏡で観察すると結晶が見えた。①この結晶は、次のア、イ、ウ、エのうちのどれか。②また、その物質の化学式を書け。



(栃木県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① イ ② NaCl

[問題]

うすい水酸化ナトリウム水溶液を入れたビーカーに BTB 溶液を 2~3 滴加え、これにうすい塩酸を少しずつ加えていった。このとき、ビーカーの中の水溶液の色が青色から緑色に変化した。次の各問いに答えよ。

- (1) この反応のように、アルカリと酸がたがいの性質を打ち消しあう反応を何というか。
- (2) 緑色に変化した水溶液を少量スライドガラスにとり、水を蒸発させると、右図のような結晶が得られた。①この物質の物質名を答えよ。
②また、化学式を書け。



(岡山県)(鳥取県)

[解答欄]

(1)	(2)①	②
-----	------	---

[解答](1) 中和 (2)① 塩化ナトリウム ② NaCl

【】中和とイオンの増減

【問題】

塩酸 20cm^3 をビーカーにとり、BTB溶液を 2~3 滴加え黄色にした。これに、水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていった。加えた量が 12cm^3 になったとき水溶液の色が変わり、中性になったことがわかった。

- (1) 水溶液が中性になったと判断したのは、水溶液の色が何色になったからか。
 (2) 水溶液が中性になるまでの間、増加したイオンと、減少したイオンはそれぞれ何か、イオンの記号で書け。

(富山県)

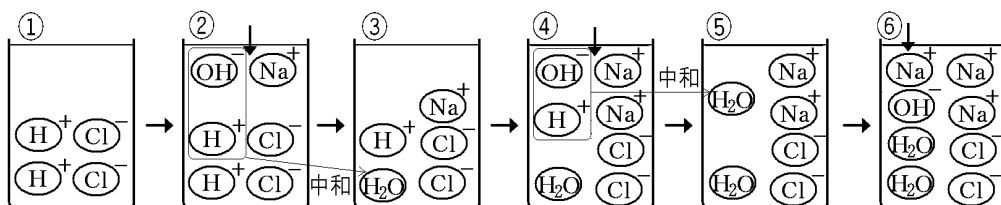
【解答欄】

(1)	(2)増加：	減少：
-----	--------	-----

【解答】(1) 緑色 (2)増加： Na^+ 減少： H^+

【解説】

次のモデル図のように、塩酸分子が 2 個で、これに水酸化ナトリウム分子を 1 個ずつ加えていくものとして考える。(実際に存在する分子の個数は $1\text{兆} \times 1\text{兆}$ 個という単位である。)



最初、上図①のように、塩酸は $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ のように電離している。 H^+ (水素イオン)のために液は酸性を示し BTB 溶液で色は黄色になっている。

これに②のように水酸化ナトリウム NaOH を 1 個加える。 $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$ のように電離するが、 OH^- (水酸化物イオン)は H^+ と中和して水 H_2O になり、③のような状態になる。③の状態では、 H^+ (水素イオン)が 1 個あるために液は酸性で黄色のままである。①→②→③で、 H^+ は 1 個減少し、 Na^+ は 1 個増加する。 OH^- は中和によってすぐに H_2O になるので 0 個のままである。 Cl^- は 2 個のままである。

さらに、④のように水酸化ナトリウム NaOH を 1 個加える。 $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$ のように電離するが、 OH^- は H^+ と中和して水 H_2O になり、⑤のような状態になる。⑤の状態では、 H^+ も OH^- もないので、液は中性で緑色である。③→④→⑤で、 H^+ は 1 個減少し、 Na^+ は 1 個増加する。 OH^- は中和によってすぐに H_2O になるので 0 個のままである。 Cl^- は 2 個のままである。

中性になった⑤の水溶液に、さらに水酸化ナトリウム NaOH を 1 個加えると⑥のように

なる。⑤は中性で H^+ がないので、中和はおこらず、 OH^- はそのまま残る。⑥の状態では、この OH^- があるために水溶液はアルカリ性で青色になる。⑤→⑥で、 H^+ は0個のまま、 Na^+ は1個増加する。 OH^- は1個増加し、 Cl^- は2個のままである。

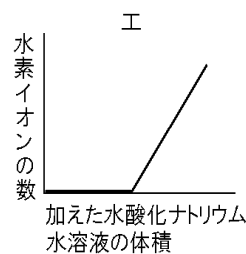
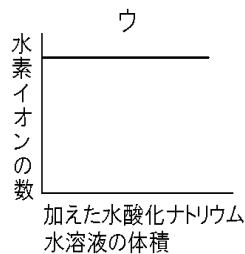
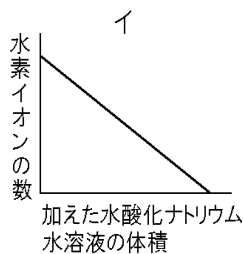
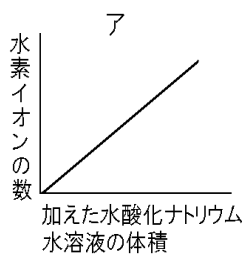
各イオンの増減をまとめると、次の表のようになる。

	①	③	⑤	⑥
H^+ (水素イオン)	2	1	0	0
OH^- (水酸化物イオン)	0	0	0	1
Cl^- (塩化物イオン)	2	2	2	2
Na^+ (ナトリウムイオン)	0	1	2	3
イオンの総数	4	4	4	6

[問題]

ビーカーに2%の塩酸を $5cm^3$ とり、BTB溶液を2, 3滴加えたところ、①液の色が変化した。次に②ビーカーの液の色が緑色に変化するまで、③水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えた。

- 下線部①で、液は何色に変化したか。
- 下線部②について、最初にあったイオンと中和してビーカーの液の色を変化させたイオンの名前とその記号を書け。
- 下線部③について、少しずつ加えるたびに行う操作を書け。
- この実験で、水酸化ナトリウム水溶液を加えていくとき、溶液中の水素イオンの数の変化を表しているグラフはどれか。次のア～エから1つ選び、その符号を書け。



(石川県(旧))

[解答欄]

(1)	(2)イオン名：	記号：
(3)	(4)	

[解答](1) 黄色 (2)イオン名：水酸化物イオン 記号： OH^- (3) よくかき混ぜる。 (4) イ

[解説]

- (1) BTB 溶液は酸性では黄色，中性では緑色，アルカリ性では青色になる。
- (2)(3) 塩酸は $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ と電離している。これに水酸化ナトリウム水溶液(電離式は $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$)を加えると，最初にあった水素イオン(H^+)と水酸化ナトリウム中の水酸化物イオン(OH^-)が結びつく中和がおこり，やがて水素イオン(H^+)と水酸化物イオン(OH^-)が過不足なく反応して，水溶液は中性で緑色になる。水酸化ナトリウム水溶液を加えるたびによくかき混ぜるのは中和がおこりやすくするためである。
- (4) アはナトリウムイオン(Na^+)，イは水素イオン(H^+)，ウは塩化物イオン(Cl^-)，エは水酸化物イオン(OH^-)である。

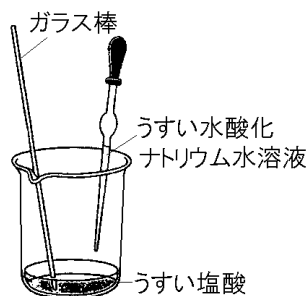
[問題]

Eさんは実験の後片付けを行っている。後の各問いに答えよ。

Eさん：先生，実験で用いたうすい塩酸はこのまま流してもよいですか。

先生：いいえ，中和してから流さなければなりません。

まず，少量のうすい塩酸を使って，中和に必要なうすい水酸化ナトリウム水溶液の量を調べてみましょう。ビーカーに実験で用いたうすい塩酸を 10cm^3 移し，BTB溶液を数滴加えてください。次に，ガラス棒でよくかき混ぜながら，溶液が黄色から緑色になるまでうすい水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えてください。

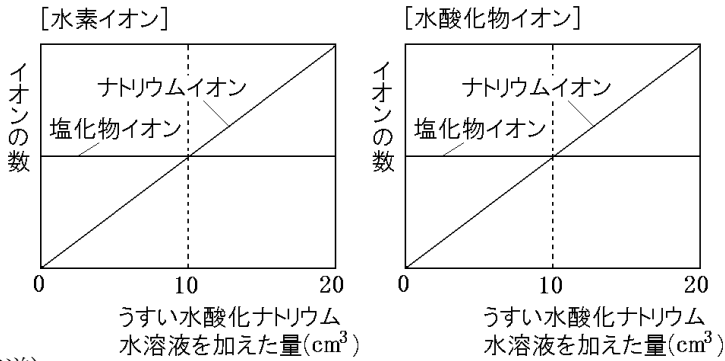
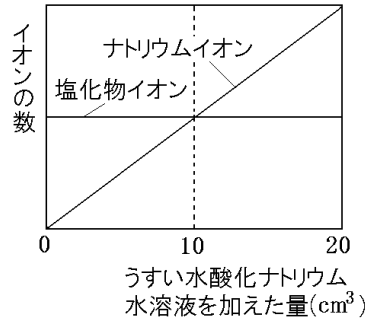


Eさん：ちょうど 10cm^3 加えたところで，a緑色になりました。

先生：それでは，b うすい塩酸にうすい水酸化ナトリウム水溶液を加えていくとき，ビーカーの中のイオンの数はどのように変化していくか，グラフをかいて考えてみましょう。

- (1) 下線部 a のようになったのはなぜか。その理由として最も適当なものを，ア～エから選べ。
- ア 水酸化ナトリウム水溶液中の水酸化ナトリウムが電離していて，電気を通すから。
- イ 水素イオンと水酸化物イオンが結びつき，互いの性質を完全に打ち消しあったから。
- ウ ナトリウムイオンと塩化物イオンの数が，同じになったから。
- エ 塩酸と水酸化ナトリウム水溶液が反応して，熱が発生したから。

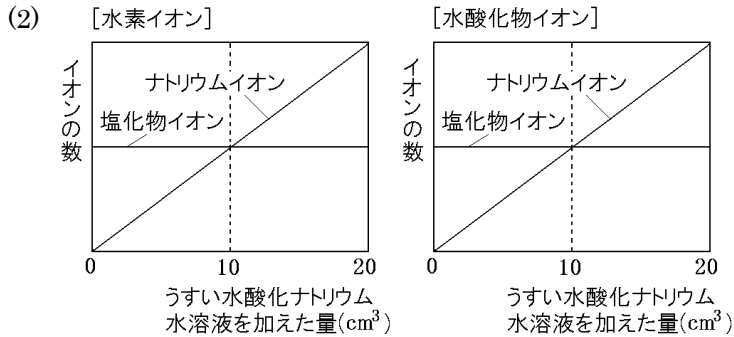
(2) 下線部bについて、右図は、実験で用いたうすい塩酸に、うすい水酸化ナトリウム水溶液を 0cm^3 から 20cm^3 まで加えていくときの、塩化物イオンとナトリウムイオンの数の変化をグラフにかき表したものである。このときの、「水素イオン」と「水酸化物イオン」の数の変化を、それぞれ下のグラフにかき加えよ。



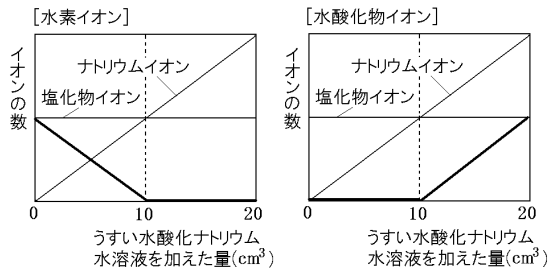
(北海道)

[解答欄]

(1)

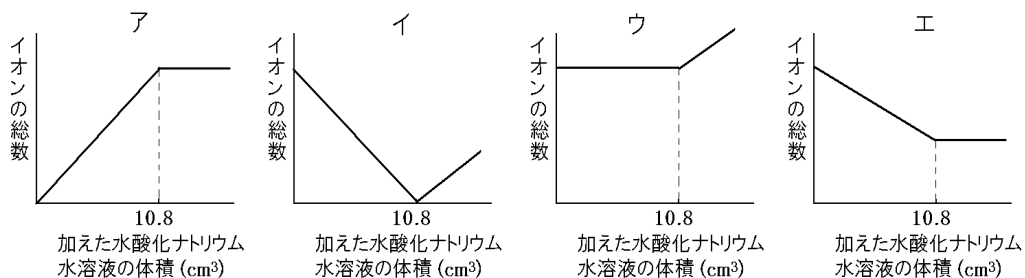


[解答](1) イ (2)



[問題]

1%の塩酸 10.0cm³をビーカーにとり、フェノールフタレイン溶液を 2～3 滴加えた。次に、この塩酸に 1%の水酸化ナトリウム水溶液をこまごめピペットで少しずつ加えながらよくかき混ぜ、溶液がうすい赤色に変化したところで加えるのをやめた。溶液がうすい赤色に変化した後も、水酸化ナトリウム水溶液を加え続けた。このとき、最初から加えた水酸化ナトリウム水溶液の体積と、溶液中のイオンの総数の関係を表したグラフとして最も適切なものを、次のア～エから 1つ選び、記号で答えよ。



(宮城県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

フェノールフタレイン溶液は、酸性と中性では無色で、アルカリ性になると赤色になる。したがって、この実験では、酸性→中性→アルカリ性と変化したことがわかる。

塩酸は $\text{HCl} \rightarrow \text{H}^+ + \text{Cl}^-$ と電離している。これに水酸化ナトリウム水溶液(電離式は $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$)を加えると、 $\text{H}^+ + \text{OH}^- \rightarrow \text{H}_2\text{O}$ の中和がおこり、水素イオン(H^+)が 1 個減少する。しかし、ナトリウムイオン(Na^+)が 1 個増加するので、全体としてイオンの個数は変化しない。しかし、完全に中和して水素イオン(H^+)がなくなってしまった後においては、加えた水酸化ナトリウムの分だけ Na^+ と OH^- が増加するので、水溶液中のイオンの総数は増加していく。したがって、ウが正解である。

[問題]

水酸化ナトリウム水溶液を入れたビーカーに pH メーターを入れ、うすい塩酸を少しずつ加えていった。うすい塩酸を加えるごとにかきまぜ、pH メーターで pH の値を読み取っていった。

(1) この実験において、うすい塩酸を加えていくにつれて、pH メーターの示す pH の値はどのように変化していくと考えられるか。次のア～エのうち、最も適しているものを1つ選び、記号を書け。

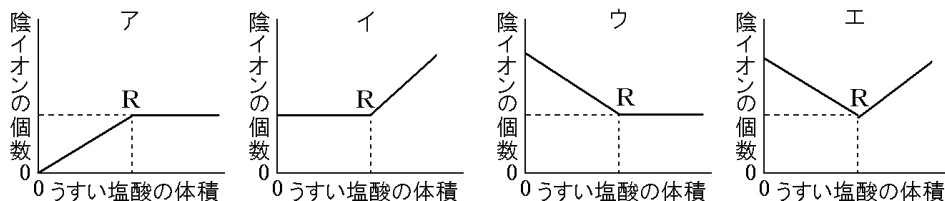
ア 最初は7より小さな値であり、やがて7になり、その後は7より大きな値になっていく。

イ 最初は7より小さな値であり、やがて7になるが、7より大きな値にはならない。

ウ 最初は7より大きな値であり、やがて7になるが、7より小さな値にはならない。

エ 最初は7より大きな値であり、やがて7になり、その後は7より小さな値になっていく。

(2) 実験において、うすい塩酸を加えていくにつれて、水溶液中の陰イオンの個数はどのように変化していくと考えられるか。次のア～エのうち、陰イオンの個数の変化を表したグラフとして最も適しているものを1つ選び、記号を書け。ただし、グラフ中に示した点 R は、pH の値が7になったときを表しているものとする。



(大阪府)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

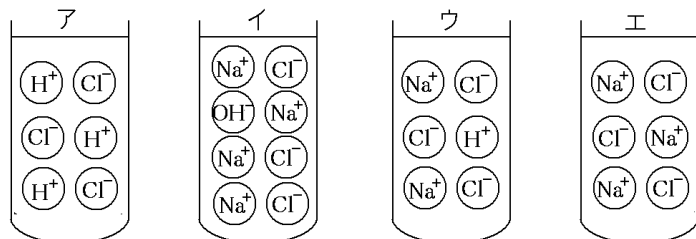
[解答](1) エ (2) イ

[解説]

(1) 水酸化ナトリウム水溶液はアルカリ性なので pH は 7 より大きい。これにうすい塩酸を少しずつ加えていくと、 $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ の中和がおり、水酸化物イオン (OH^-) が減少していくので、pH の値は小さくなっていく。やがて、溶液は中性になり、pH は 7 になる。さらにうすい塩酸を加えていくと、水酸化物イオン (OH^-) が存在しないため、中和は起こらず、水素イオン (H^+) が増えて酸性になり、pH は 7 より小さくなっていく。

[問題]

塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていったときに、水溶液中のイオンのようすが変化した。イオンをモデルを使って表すとき、変化のようすはどのようにになるか。次のア、イ、ウ、エを正しい順に並べ、記号で書け。



(栃木県)

[解答欄]

[解答]ア→ウ→エ→イ

[問題]

水酸化バリウム水溶液に、硫酸を少しずつ注意深く加えた。硫酸を加えるとビーカー内のようすに変化が見られた。このとき、次の各問いに答えよ。

- (1) どのような変化が見られたか、簡単に説明せよ。
- (2) ビーカー内のようすに変化が見られなくなるまでじゅうぶんに硫酸を加えた後、青色リトマス紙にビーカー内の液をつけたところ、赤色に変化した。このとき、ビーカー内の水溶液中に最も多く存在するイオンは何か、イオン式で答えよ。

(鳥取県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 白い沈殿ができた。 (2) H^+

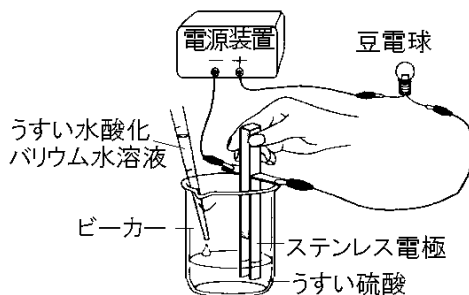
[解説]

水酸化バリウム($Ba(OH)_2$)は水溶液中で、 $Ba(OH)_2 \rightarrow Ba^{2+} + 2OH^-$ のように電離している。これに硫酸(電離の式は $H_2SO_4 \rightarrow 2H^+ + SO_4^{2-}$)を加えると、 $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ の中和が起こる。同時に、 $Ba^{2+} + SO_4^{2-} \rightarrow BaSO_4$ の反応が起こって白い沈殿ができる。これによって、4種類のイオン(H^+ , OH^- , Ba^{2+} , SO_4^{2-})がそれぞれ減少する。過不足なく中和が起こり、水溶液が中性になった時点で、この4つのイオンは全てなくなる。その後、硫酸(電離の式は $H_2SO_4 \rightarrow 2H^+ + SO_4^{2-}$)を加えていくと、水溶液は酸性になり、青

色リトマスにビーカー内の液をつけると赤色になる。このとき、水溶液中にあるイオンは、 H^+ と SO_4^{2-} で、 $\text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow 2\text{H}^+ + \text{SO}_4^{2-}$ の式より、イオン数の比は、 $(\text{H}^+) : (\text{SO}_4^{2-}) = 2 : 1$ になる。したがって、 H^+ の数が最も多い。

【問題】

右の図のような装置を用いて、うすい硫酸にうすい水酸化バリウム水溶液を、中性になるまで少しずつ加えていき、豆電球の明るさを観察した。次の各問いに答えよ。



- (1) この実験で生じた白色の物質は何か。その物質の化学式を書け。
- (2) この実験で、豆電球は、最初は明るく点灯していたが、しだいに暗くなり消えた。その理由を、生じる塩の性質に着目し、「イオン」という言葉を用いて、「水溶液中に」という書き出しに続けて簡単に書け。

(愛媛県)

【解答欄】

(1)	
(2)	

【解答】(1) BaSO_4 (2) 水溶液中に水にとけにくい塩が生じたため、イオンの総数が減少し、中和の時点でイオンがなくなったため。

【解説】

硫酸は水溶液中で、 $\text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow 2\text{H}^+ + \text{SO}_4^{2-}$ のように電離している。これに水酸化バリウム(電離の式は $\text{Ba}(\text{OH})_2 \rightarrow \text{Ba}^{2+} + 2\text{OH}^-$)を加えると、 $\text{H}^+ + \text{OH}^- \rightarrow \text{H}_2\text{O}$ の中和が起こる。同時に、 $\text{Ba}^{2+} + \text{SO}_4^{2-} \rightarrow \text{BaSO}_4$ の反応が起こって白い沈殿ができる。これによって、4種類のイオン(H^+ 、 OH^- 、 Ba^{2+} 、 SO_4^{2-})がそれぞれ減少するため、電流が流れにくくなる。過不足なく中和が起こり、水溶液が中性になった時点で、この4つのイオンはすべてなくなり、電流が流れなくなる。

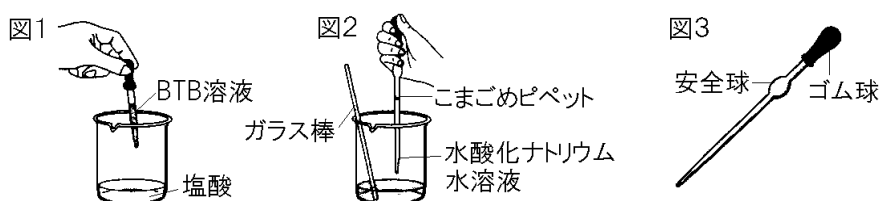
【】中和の実験

[問題]

うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液を用いて、次の実験を行った。後の各問いに答えよ。

(実験)

- I 図1のように、ビーカーに塩酸 10cm^3 をとり、これにBTB溶液を2, 3滴入れた。
- II 図2のように、実験のIの水溶液に、こまごめピペットを用いて、水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加え、ガラス棒でよくかき混ぜた。このとき、水溶液の色の変化から、水溶液の性質を判断した。なお、実験を通して、水溶液中には塩の結晶は見られなかった。



- (1) 塩酸は、無色で刺激臭のある気体を水にとかしたものである。この気体は何か。物質名を書け。
- (2) 図3は、こまごめピペットを示したものである。安全球がつけられている理由は何か。「吸い上げられた液体が、」という書き出しに続けて書け。
- (3) 次の文は、水溶液が中性になったと判断したことについてまとめたものである。文中の①, ②の()内からそれぞれ適語を選べ。

実験のIで、BTB溶液を入れた水溶液の色は①(青/緑/黄)であったが、実験のIIで、水溶液の色が②(青/緑/黄)になったので、水溶液が中性になったと判断した。

- (4) 水溶液が中性になったのは、水溶液中の水素イオンが水酸化物イオンと結びつく中和が起こったためである。このときできた物質は何か。化学式で書け。
- (5) 次の文は、実験のIIで、水溶液が中性になった後、さらに水酸化ナトリウム水溶液を加えたときの水溶液について述べたものである。文中の①, ②の()内からそれぞれ適語を選べ。

水溶液が中性のときの色から別の色に変化した。このことから、水溶液のpHは7より①(大きく/小さく)なったと考えられる。また、水溶液中には塩の結晶が見られなかったことから、水溶液中の②(ナトリウムイオン/塩化物イオン)の数は、実験のIIを通して、変化しなかったと考えられる。

(福島県)

[解答欄]

(1)	(2)		
(3)①	②	(4)	(5)①
②			

[解答](1) 塩化水素 (2) 吸い上げられた液体が、ゴム球に入らないようにするため。

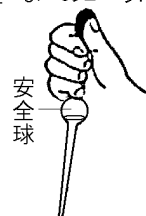
(3)① 黄 ② 緑 (4) H₂O (5)① 大きく ② 塩化物イオン

[解説]

(1) 塩化水素(HCl)は無色で刺激臭のある気体で水によくとける。塩化水素を水にとかしたものが塩酸である。

(2) こまごめピペットは、少量の液体を必要な量だけとるときに使われる。液体がゴム球に吸い込まれないようにするため、安全球がつけられている。親指と人さし指でゴム球を操作し、下の3本の指で、ガラス部分をもつ。親指と人さし指でゴム球をおして、ピペットの先を液体に入れ、親指をゆるめて液体を吸い込む。液をビーカーに出すときは、親指でゴム球をおして、必要な量の液体を出す。

[こまごめピペット]



(3)(4) BTB溶液は酸性では黄色、中性では緑色、アルカリ性では青色になる。最初、塩酸のみがあるので、酸性で黄色を示す。塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、塩酸中の水素イオン(H⁺)と水酸化ナトリウム水溶液中の水酸化物イオン(OH⁻)が結びつく中和の反応(H⁺+OH⁻→H₂O)が起こり、水(H₂O)ができる。過不足なく中和が起こると、水溶液中には水素イオンも水酸化物イオンもなくなるため、水溶液は中性になり、緑色になる。

(5) pH は中性のとき 7、酸性のときは 7 より小さく、アルカリ性のときは 7 より大きくなる。水溶液中のイオンで、数が変わらないのは塩化物イオンだけである(もし、塩(塩化ナトリウム)の結晶が出たときは、塩化物イオンの数は減少する)。

[問題]

酸とアルカリの中和反応について調べるために、次の実験①、②、③を順に行った。

- ① 2本の試験管A、Bを用意し、試験管Aにはうすい硫酸を、試験管Bにはうすい塩酸をそれぞれ 5.0cm^3 とった。2本の試験管に、緑色のBTB溶液を数滴ずつ加えたところ、どちらも水溶液の色は黄色に変化した。
- ② 試験管Aに、うすい水酸化バリウム水溶液を数滴加えたところ、塩が白い沈殿として見られた。このとき、試験管Aの水溶液の色は黄色のままであった。
- ③ 試験管Bで、水溶液をよく混ぜながら、うすい水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていくと、 5.0cm^3 加えたところで水溶液の色が黄色から緑色に変化した。このとき沈殿は見られなかった。緑色になった水溶液をスライドガラスに数滴とり、水分を蒸発させると塩が現れたので、顕微鏡で観察したところ結晶が見られた。さらに、試験管Bにうすい水酸化ナトリウム水溶液を 2.5cm^3 加えた。このとき、試験管Bの水溶液の色は青色であった。

このことについて、次の各問いに答えよ。

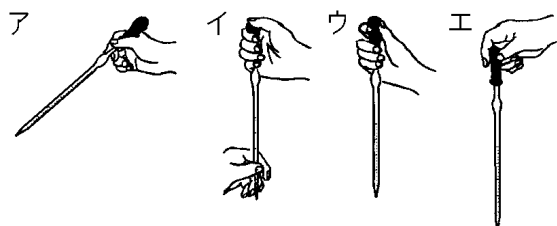
- (1) 実験②、③の中和反応において、共通して生じる物質の化学式を書け。
- (2) 次の文章は、実験②の中和反応で生じた塩について説明したものである。文中の a～c の()内からそれぞれ適語を選べ。

硫酸から生じる a(陽イオン/陰イオン)と、水酸化バリウムから生じる b(陽イオン/陰イオン)が結びついて、塩が生じた。このとき生じた塩は、水に c(とけやすい/とけにくい)塩だったので、白い沈殿が見られた。

- (3) 実験③において、観察される塩の結晶の形は次の図のア～エのどれか。



- (4) 水溶液をとるときに使うこまごめピペットの持ち方として、最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えよ。



(栃木県)(山口県)

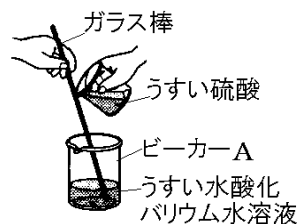
[解答欄]

(1)	(2)a	b	c
(3)	(4)		

[解答](1) H₂O (2)a 陰イオン b 陽イオン c とげにくい (3) ア (4) ウ

[問題]

右の図のように、うすい水酸化バリウム水溶液 100cm³が入ったビーカーAに、うすい硫酸 100cm³を加えたところ、白い沈殿が生じた。ビーカーAの液をろ過し、ろ紙を通った液体をビーカーBに入れた。ビーカーBの液体にBTB溶液を数滴加えたところ、液体が黄色になった。



- (1) この実験で生じた白い沈殿は何か。その名称を書け。
- (2) ビーカーBの液体が黄色になったことから、この液体の性質は酸性であることがわかる。ビーカーBの液体が酸性である理由を「反応」という語句を用いて書け。

(新潟県)

[解答欄]

(1)
(2)

[解答](1) 硫酸バリウム (2) 硫酸と水酸化バリウム水溶液の化学反応で、水酸化バリウムのみすべて残らずに反応し、硫酸が残ったから。

[解説]

硫酸に水酸化バリウム水溶液を加えたときに生じるBa²⁺とSO₄²⁻はただちに結びついて水にとげにくいBaSO₄(硫酸バリウム)となり、白い沈殿になる。

[問題]

水溶液 A～E は、うすい塩酸、うすい硫酸、うすい水酸化ナトリウム水溶液、うすい水酸化バリウム水溶液、食塩水のいずれかである。これらについて実験を行った。

(実験 1)

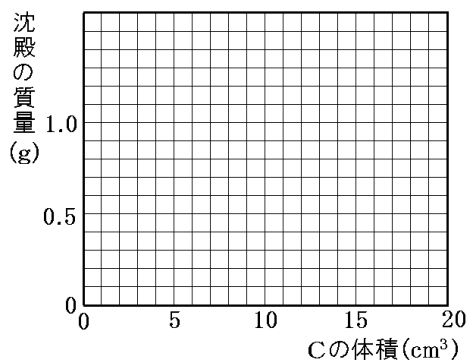
- ① 試験管に A～E をそれぞれ少量とり、BTB 溶液を 1 滴加えると、A と D の水溶液の色は黄色に変化した。
- ② ①の A の水溶液には C を、①の D の水溶液には E を少しずつ加えると、それぞれの水溶液の色は黄色から緑色に変化した。A の水溶液に C を加えたものには、白い沈殿が生じた。
- ③ A～E をスライドガラスにそれぞれ 1 滴とり、かわいてから、ようすを観察した。
- ④ ②の D に E を加えて緑色にした水溶液をスライドガラスに 1 滴とり、かわいてから、ようすを観察すると、結晶が見られた。この結晶は、③で B に見られた結晶と同じ形だった。

(実験 2)

- ① A が 20cm^3 ずつ入っている 6 個のビーカーに、異なる量の C を加えた。
- ② 生じた白い沈殿をろ過してじゅうぶん乾燥させ、質量をはかり、表にまとめた。
- ③ それぞれのろ液に BTB 溶液を 1 滴加え、色の変化を調べ、表にまとめた。

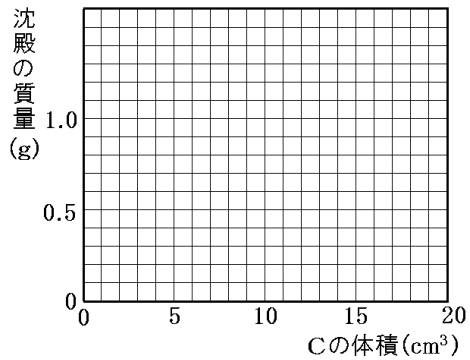
A の体積(cm^3)	20	20	20	20	20	20
C の体積(cm^3)	0	3	4	(あ)	18	20
沈殿の質量(g)	0	0.3	0.4	(い)	1.2	1.2
色の変化	黄	黄	黄	緑	青	青

- (1) 実験 1 の②で生じた白い沈殿は何か、化学式を書け。
- (2) 実験 1 の③で何も残らないものが 1 つあった。それはどの水溶液か、A～E から適切なものを 1 つ選び、1) 記号を書け。2) また、その水溶液の溶質の物質名を書け。
- (3) E の溶質の電離のようすをイオン式で表せ。
- (4) 表で、C を 18cm^3 加えたときも 20cm^3 加えたときも、同じ質量の白い沈殿が生じた理由を簡潔に説明せよ。
- (5) 表をもとに、C の体積と沈殿の質量との関係を右上のグラフに表せ。ただし、(あ)、(い)を除く 5 つの測定値を、●ではっきりと記入すること。
- (6) 表の(あ)、(い)に当てはまる適切な値を、(あ)は整数で、(い)は小数第 1 位まで書け。

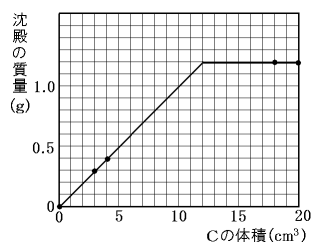


(長野県)

[解答欄]

(1)	(2)1	2)	(3)
(4)			
(5)			
			
(6)(あ)	(い)		

[解答](1) BaSO_4 (2)1) D 2) 塩化水素 (3) $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$ (4) 20cm^3 のAと反応するCの体積は決まっています、それ以上あっても反応しないから。 (5)



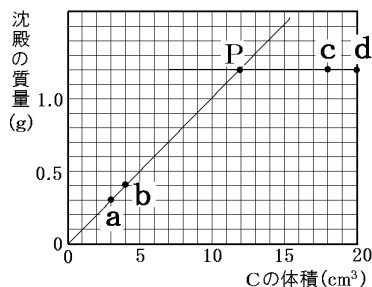
(6)(あ) 12 (い) 1.2

[解説]

(1)(2) 実験 1 で、「BTB溶液を 1 滴加えると、AとDの水溶液の色は黄色に変化した」とあるので、AとDは酸性で、うすい塩酸かうすい硫酸である。また、「Aの水溶液にCを加えたものには、白い沈殿が生じた」とあるので、Aはうすい硫酸、Cはうすい水酸化バリウム水溶液で、白い沈殿は硫酸バリウム(BaSO_4)であると判断できる。また、Dはうすい塩酸とわかる。「Dの水溶液にEを少しずつ加えると、水溶液の色は黄色から緑色に変化した」とあるので、Eはアルカリ性であることがわかる。したがって、Eはうすい水酸化ナトリウム水溶液であると判断できる。残りのBは食塩水である。うすい塩酸(D)、うすい硫酸(A)、うすい水酸化ナトリウム水溶液(E)、うすい水酸化バリウム水溶液(C)、食塩水(B)のうち、かわかすと何も残らないのは、溶質が気体の塩化水素であるうすい塩酸(D)である。

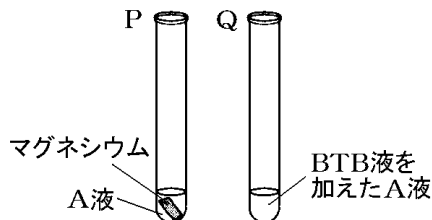
(3) Eはうすい水酸化ナトリウム水溶液で、電離の式は、 $\text{NaOH} \rightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^-$ である。
 (4) Aのうすい硫酸とCのうすい水酸化バリウム水溶液を加えると、中和の反応が起こり、硫酸バリウムの白い沈殿ができる($\text{H}_2\text{SO}_4 + \text{Ba}(\text{OH})_2 \rightarrow \text{BaSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$)。Cが少ないときは酸性で水溶液の色は黄色である。Cの体積が(あ)のときは、過不足なく中和が起こり、水溶液は中性で緑色になる。(あ)よりCの体積が増えても中和は起こらず、あらたに硫酸バリウムの白い沈殿はできない。Cが 18cm^3 と 20cm^3 のときの水溶液の色は青色なので、硫酸バリウムの白い沈殿の量は(あ)の場合と同じである。

(5)(6) 右図のように、原点と点aと点bを結んだ直線と、点cと点dを結んだ直線の交点Pが、ちょうど中和した点を表している。点PのときのCの体積(あ)は 12cm^3 で、沈殿の量(い)は 1.2g である。



[問題]

うすい水酸化ナトリウム水溶液(A液)とうすい塩酸(B液)を混ぜて、液の性質を調べる実験を行った。まず、試験管PとQに、A液をそれぞれ 3cm^3 入れた。そして、右図のように、Pにはマグネシウムを入れ、Qには緑色のBTB溶液を数滴加えた。次に、それぞれの試験管に、こまごめピペットでB液を 2cm^3 ずつ加え、試験管を振った後、P内のマグネシウムのようすとQ内の液の色を観察した。次の各問いに答えよ。



(1) 表は、加えたB液の体積が 2cm^3 、 4cm^3 、 6cm^3 のときの観察結果を示したものである。表中の(ア)に入る色は何か。

	加えた B 液の体積		
	2cm^3	4cm^3	6cm^3
P 内のマグネシウムのようす	変化なし	気体が少し発生	気体が多く発生
Q 内の液の色	青	(ア)	(ア)

(2) 加えたB液の体積が 2cm^3 のとき、P内のマグネシウムのようすに変化がなかった理由を、「加えた塩酸は、」という書き出しで簡潔に書け。なお、A液とB液を混ぜたときに起きた反応の名称を用いること。

(福岡県)

[解答欄]

(1)

(2)

[解答](1) 黄色 (2) 加えた塩酸は、すべて水酸化ナトリウムと中和してしまったから。

[解説]

BTB 溶液はアルカリ性では青色、中性では緑色、酸性では黄色になる。マグネシウムは酸(塩酸)と反応して水素が発生するが、アルカリ(水酸化ナトリウム)では変化しない。加えたB液(塩酸)が 2cm^3 のときは、加えた塩酸はすべて水酸化ナトリウムと中和してしまうが、まだ水酸化ナトリウムが残っているため、液はアルカリ性のままで、BTB溶液は青色になっている。加えたB液(塩酸)が 4cm^3 、 6cm^3 のときは、気体(水素)が発生していることから、加えた塩酸が試験管内のすべての水酸化ナトリウムと中和した後も、あまった塩酸がマグネシウムと反応したと考えられる。このとき、液は酸性になるのでBTB溶液の色は黄色になる。

[問題]

塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を用いて、次の実験を順に行った。

【実験】

- ① 3個のビーカーA, B, Cに、それぞれうすい塩酸を 20cm^3 ずつとり、緑色のBTB溶液を数滴加えると、すべて黄色になった。
 - ② ビーカーAに水を 20cm^3 加え、ビーカーBにはうすい水酸化ナトリウム水溶液を 20cm^3 加えたところ、どちらの水溶液も黄色のままだった。
 - ③ ビーカーA, B のそれぞれに、同じ長さのマグネシウムリボンを入れると、どちらも気体が発生した。
- (1) 実験③で発生した気体について、正しいことを述べているのはどれか。
- ア 水にとけにくく、燃えると水になる。
 - イ 水にとけやすく、特有な刺激臭がある。
 - ウ 水にとけにくく、物質を燃やすはたらきがある。
 - エ 水にとけにくく、空気中に約 78%の割合で含まれている。
- (2) 実験③で、どちらのビーカーでも気体が発生したが、気体の発生のしかたは、ビーカーBの方がビーカーAよりも弱かった。この理由を、「ビーカーBでは」という書き出しで、簡潔に書け。

(栃木県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) ア (2) ビーカーB では中和反応で酸性の度合いが弱くなったから。

[解説]

(1) ビーカーAは塩酸に水を加えただけなので液の性質は酸性である。酸(塩酸)にマグネシウムをいれると水素が発生する。水素は水にとけにくく、火を近づけると爆発して燃え水ができる($2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$) (1)のイ「水にとけやすく、特有な刺激臭がある」はアンモニア、ウ「水にとけにくく、物質を燃やすはたらきがある」のは酸素、エ「水にとけにくく、空気中に約78%の割合で含まれている」のは窒素である。

(2) ビーカーBでは塩酸が加えられた水酸化ナトリウムと反応して中和反応が起こっている。実験③で中和反応後の液にマグネシウムを加えると気体が発生したことから、すべての水酸化ナトリウムが塩酸と中和した後も塩酸が残っていると判断できる。マグネシウムは酸と反応するが、アルカリには反応しないからである。ただ、ビーカーBの塩酸の濃度はAと比べて、中和した分だけうすくなり、酸性の度合いが弱くなっているの、気体の発生のしかたは、ビーカーBの方がAよりも弱い。なお、塩酸と水酸化ナトリウムの量が同じ(20cm^3)でも濃度が違うので、過不足なく反応するわけではない。

[問題]

試験管 A～E を用いて、次の①～③の手順で実験を行った。

- ① 各試験管にうすい塩酸 5cm^3 と緑色のBTB溶液を 2 滴入れた。
- ② 各試験管にうすい水酸化ナトリウム水溶液を量を変えて加え、よくかき混ぜ、溶液の色を調べた。表はその結果である。

試験管	A	B	C	D	E
塩酸の体積[cm^3]	5	5	5	5	5
加えた水酸化ナトリウム水溶液の体積[cm^3]	1	2	3	4	5
溶液の色	黄	黄	黄	青	青

- ③ 各試験管にマグネシウムリボンを入れて変化を調べた。

実験の手順③で起こった変化として、最も適切なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 試験管 A～E のすべてから気体が発生し、試験管 E から最も激しく発生する。
- イ 試験管 A～E のすべてから気体が発生し、試験管 A から最も激しく発生する。
- ウ 試験管 A～C から気体が発生し、試験管 C から最も激しく発生する。
- エ 試験管 A～C から気体が発生し、試験管 A から最も激しく発生する。
- オ 試験管 D, E から気体が発生し、試験管 E の方が激しく発生する。

(富山県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

BTB 溶液は酸性のときは黄色、中性では緑色、アルカリ性では青色になる。したがって、A～C は酸性であることが分かる。A～C ではマグネシウムは酸(塩酸)と反応して水素が発生するが、A→C で水酸化ナトリウムと中和反応を起こして塩酸が減少するので、水素の発生量はだんだん少なくなる。D と E では溶液の色が青色になっていることから、アルカリ性になっていることがわかる。これは、塩酸がすべて中和してしまい、その後加えられた水酸化ナトリウムによって液がアルカリ性になったためである。マグネシウムはアルカリ(水酸化ナトリウム)とは反応しないので、水素は発生しない。

[問題]

マグネシウムとうすい塩酸で水素を発生させた。そこに BTB 溶液を加えた水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていくと、水素の発生は少なくなった。

- (1) このとき、水素が発生している溶液は何色か。
- (2) さらに、水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、水素の発生が止まった。その理由を簡潔に説明せよ。

(鳥取県)

[解答欄]

(1)

(2)

[解答](1) 黄色 (2) うすい塩酸が水酸化ナトリウム水溶液によって中和されたため。

[問題]

水溶液の性質を調べるために、次の実験を行った。これについて、あとの問いに答えよ。

[実験]

うすい塩酸 10cm^3 を試験管に取り BTB 溶液を 2~3 滴加えたところ黄色になった。これを溶液 A とした。溶液 A にうすい水酸化ナトリウム水溶液を 2cm^3 加え、これを溶液 B とした。同様に溶液 B にうすい水酸化ナトリウム水溶液を 2cm^3 ずつ加えていき、それぞれの溶液を C, D, E とした。それぞれの溶液の色を観察するとその結果は次の表のようになった。この結果から水酸化ナトリウム水溶液を加えることによって、塩酸の性質が打ち消される反応が起きていたことがわかった。

水酸化ナトリウム水溶液を加えた回数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回
加えた水酸化ナトリウム水溶液の総量(cm^3)	0	2	4	6	8
操作後の試験管内の水溶液の色	黄色	黄色	黄色	青色	青色

(1) 下線部のような、酸性とアルカリ性の溶液がたがいの性質を打ち消し合う反応を何というか、その名称を答えよ。

(2) 溶液 B を一部取り水を蒸発させると、下線部の反応でできた白い固体が残った。この固体は何か、その化学式を答えよ。

(3) 実験の 4 回の操作において、それぞれ下線部の反応は起きているか。最も適当なものを右のア~オから 1 つ選んで記号で答えよ。ただし、下線部の反応が起きているときは○、起きていないときは—とする。

	1 回目	2 回目	3 回目	4 回目
ア	○	○	—	—
イ	○	○	○	—
ウ	—	○	○	—
エ	—	—	○	—
オ	○	○	○	○

(4) 溶液 A を少量取りマグネシウムリボンを入れると気体が発生した。同様に溶液 B~E を少量ずつ取り、それぞれにマグネシウムリボンを入れたとき、気体が発生するのはどれか。最も適当な溶液の組み合わせを、次のア~エから 1 つ選んで記号で答えよ。

ア 溶液 B イ 溶液 B, 溶液 C ウ 溶液 B, 溶液 C, 溶液 D

エ 溶液 B, 溶液 C, 溶液 D, 溶液 E

(島根県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

[解答](1) 中和 (2) NaCl (3) イ (4) イ

[解説]

塩酸に水酸化ナトリウムを加えると、酸性とアルカリ性の溶液がたがいの性質を打ち消し合う中和反応がおこる。このときの反応は、(塩酸)+(水酸化ナトリウム) \rightarrow (水)+(塩化ナトリウム)

($\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{NaCl}$)である。溶液Bを一部取り水を蒸発させると、中和反応の結果できた塩化ナトリウム(NaCl)の白い固体が残る。

BTB 溶液は酸性では黄色、中性では緑色、アルカリ性では青色になる。したがって、水溶液の色が黄色の 1 回目(B)、2 回目(C)までは水酸化ナトリウムと中和して減少した塩酸がまだ残っており、マグネシウムを加えると気体(水素)が発生すると考えられる。3 回目に水酸化ナトリウムを加えると水溶液の色が黄色 \rightarrow 青色に変わるので、中和反応が途中まで起こり、ちょうど中性になった後は、さらに加えた水酸化ナトリウムがそのまま残ると考えられる。

[問題]

うすい塩酸に、うすい水酸化ナトリウム水溶液を混ぜたあとの水溶液の性質を調べるために、次の実験を行った。

[実験]

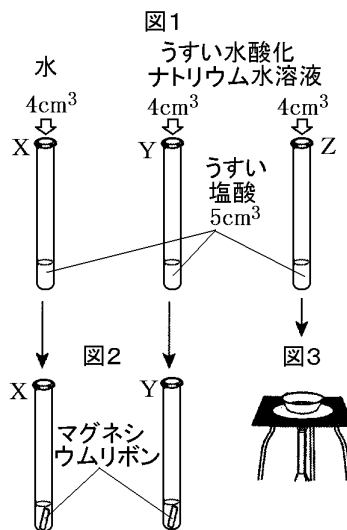
図 1 のように、うすい塩酸を 5cm^3 ずつ入れた 3 本の試験管 X, Y, Z を用意し、X には水を 4cm^3 , Y, Z には、うすい水酸化ナトリウム水溶液を 4cm^3 ずつ加えてよく混ぜ、続いて次の①, ②を行った。

- ① 図 2 のように、X, Y に同じ大きさに切ったマグネシウムリボンを入れた。
- ② Z の水溶液を蒸発皿にとり、図 3 のように加熱した。

次の(1), (2)の問いに答えよ。

- (1) ①の結果、X, Y の両方から気体が発生したが、Y の方が、X に比べて気体の発生が弱かった。この原因となった Y の水溶液の中で起こっていた反応を何というか。漢字で書け。
- (2) ②で、加熱後の蒸発皿の中には白い固体が残る、この固体を水にとかしてできた水溶液は中性であった。この白い固体は何か。その化学式を書け。

(山梨県)



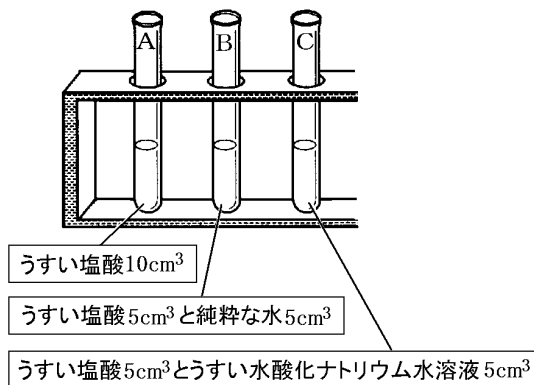
[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 中和 (2) NaCl

[問題]

図のように液体を入れた 3 本の試験管 A～C に、緑色の BTB 溶液をそれぞれ 1、2 滴加え、試験管をよく振ったところ、3 本とも BTB 溶液の色は黄色に変化した。次に、試験管 A～C に同じ質量の亜鉛をそれぞれ加えたところ、A、B では気体が激しく発生したが、C では気体がきわめておだやかに発生した。この反応が終わった後、試験管 A～C の底にはそれぞれ亜鉛が残っていた。



- (1) 試験管 C で、気体の発生がきわめておだやかであったのは、うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液を試験管に入れたとき、どのような反応が起こり、液体の性質がどのようになっていたからか。
- (2) 次の文の①、②に当てはまるものを()内からそれぞれ選べ。
試験管 A～C で発生した気体は、すべて①(酸素/水素/二酸化炭素)である。また、試験管の底に残っていた亜鉛の質量が最も小さいのは、②(試験管 A/試験管 B/試験管 C)である。

(北海道)

[解答欄]

(1)	
(2)①	②

[解答](1) うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液の中和がおこり、酸の性質が弱められたから。(2)① 水素 ② 試験管 A

[問題]

酸性やアルカリ性を示す水溶液の性質を調べるために、BTB 溶液の代わりにムラサキキャベツのしぼり汁を使って、次のような実験を行った。

[実験 1] うすい塩酸とうすい水酸化ナトリウム水溶液がそれぞれ入った 2 本の試験管に、マグネシウムの小片を入れると、うすい塩酸に入れた方だけが気体を発生しながらとけた。発生した気体を、試験管 A に集め、火を近づけると音をたてて気体は燃えた。

[実験 2] うすい塩酸が入った試験管に、ムラサキキャベツのしぼり汁を加えると赤色に変化した。そこへアルミニウムの小片を入れると、気体を発生しながらとけはじめた。次に、うすい水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、気体の発生は、しだいに弱まり、やがて止まった。さらに、うすい水酸化ナトリウム水溶液を加えていくと、再び気体が発生し、試験管内の水溶液は黄色に変化した。

- (1) 実験 1 において、発生した気体は何か、その名称を書け。また、この気体が燃えたときの化学変化を化学反応式で書け。
- (2) 実験 2 において、気体の発生が止まったのはなぜか。
- (3) 実験 2 において、ムラサキキャベツのしぼり汁を黄色に変化させた水溶液にはどのような性質があるか、次のア～ウから適切なものを 1 つ選んで、その符号を書け。
ア 無色のフェノールフタレイン液を赤色に変える。
イ 緑色の BTB 溶液を黄色に変える。
ウ 青色のリトマス紙を赤色に変える。

(兵庫県)

[解答欄]

(1)	
(2)	(3)

[解答](1) 水素 / $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$ (2) 中和されて水溶液が中性になったから (3) ア

[解説]

マグネシウムは酸(塩酸)と反応して水素(H_2)が発生する。水素に火を近づけると、水素は爆発して燃える($2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$)。マグネシウムはアルカリ(水酸化ナトリウム)とは反応しない。

通常、金属は酸と反応して水素が発生するが、アルカリとは反応しない。しかし、アルミニウムは酸ともアルカリとも反応して水素が発生する。実験 2 で、最初は塩酸がアルミニウムと反応して水素が発生する。水酸化ナトリウムを加えていくと塩酸と中和して塩酸が少なくなり、発生する水素も少なくなっていく。塩酸と水酸化ナトリウムが過不足なく反応して、液が中性になったとき気体は発生しなくなる。さらに水酸化ナトリウムを加えると、液はアルカリ性になっていく。アルミニウムはアルカリ(水酸化ナトリウ

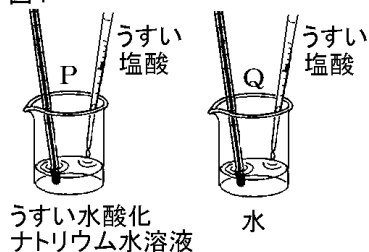
ム)と反応して水素が再び発生しだす。ムラサキキャベツのしぼり汁を黄色に変化させたのはアルカリである。アルカリは無色のフェノールフタレイン液を赤色に変え、BTB 溶液を青色に変え、赤色リトマス紙を青色に変える。

[問題]

酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせる次の実験について、後の各問いに答えよ。

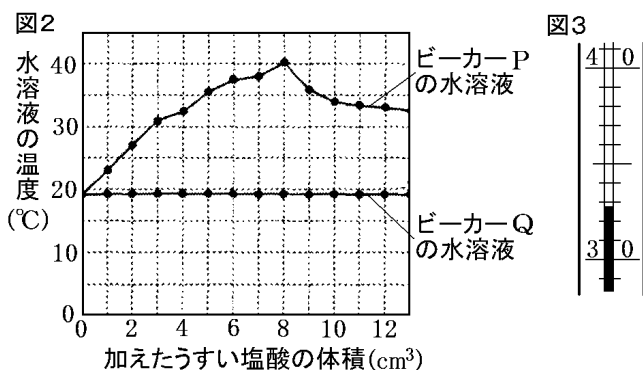
[実験]

[1] ビーカーP, Qを用意し、ビーカーPにはうすい水酸化ナトリウム水溶液 10cm³を、ビーカーQには水 10 cm³をとり、それぞれのビーカーにBTB溶液 2 滴を加



えた。それぞれのビーカーの水溶液の温度をはかったところ、どちらも室温と同じ 19.0℃だった。

[2] 図 1 のように、[1]のビーカーP, Qにそれぞれ 19.0℃のうすい塩酸を 1 cm³ずつ加え、そのたびによくかき混ぜて水溶液の温度をはかり、温度変化のよう



すを図 2 のグラフに示した。ビーカーPに加えたうすい塩酸の体積が 4 cm³, 8 cm³, 12 cm³のときの水溶液をそれぞれA, B, Cとした。水溶液Bは緑色になり、水溶液Cの温度をはかったときの温度計は図 3 のようになった。

- (1) 図 3 から水溶液 C の温度を読みとり、その値を書け。
- (2) 水溶液 A の色と、水溶液 A にマグネシウムリボンを入れた場合の気体の発生について、正しく述べているものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。
 - ア 水溶液 A は青色で、気体は発生しない。
 - イ 水溶液 A は青色で、気体が発生する。
 - ウ 水溶液 A は黄色で、気体は発生しない。
 - エ 水溶液 A は黄色で、気体が発生する。
- (3) 水溶液 A, B, C にとけている塩の質量をそれぞれ a, b, c とし、これらを比べたとき、正しいものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。
 - ア $a < b < c$ イ $a < b = c$ ウ $b > a = c$ エ $b < a = c$

(4) この実験では、ビーカーPだけではなく、ビーカーQにも同じ操作を行って温度変化を比べている。このようにビーカーQを用意し、同じ操作を行った目的を説明せよ。

(宮城県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)	
(4)			

[解答](1) 32.8℃ (2) ア (3) イ (4) ビーカーPの温度上昇は水酸化ナトリウム水溶液と塩酸の中和による発熱であることを確かめるため。

[解説]

水酸化ナトリウム水溶液に塩酸を加えると中和反応がおこるが、このときに熱(中和熱)が発生する。ビーカーPの水溶液に塩酸を加えていくと水溶液の温度が上昇していくのはこの中和熱のためである。塩酸を8 cm³加えたところで、水温がピークに達し、それ以降は温度が低下している。このことから、塩酸を8 cm³加えたところで水酸化ナトリウムがすべて中和されてしまい、それ以降、塩酸を加えても中和反応が起こらず熱も発生せず、まわりに熱が逃げたために温度が低下したものと考えられる。

(2) 加えた塩酸の体積が4 cm³のときの水溶液Aには、まだ水酸化ナトリウムが残っているので、液はアルカリ性でBTB溶液の色は青色になる。また、加えられた塩酸はすべて中和で使われたために、マグネシウムを加えても気体(水素)は発生しない。

(3) 加えた塩酸4 cm³が中和した水溶液A中の塩の質量(ag)より、加えた塩酸8 cm³が過不足なく中和反応した水溶液Bの塩の質量(bg)が多い。加えた塩酸が12 cm³の水溶液Cでは、中和反応を起こした塩酸は8 cm³だけなので、C中の塩の質量(cg)はbgと同じである。

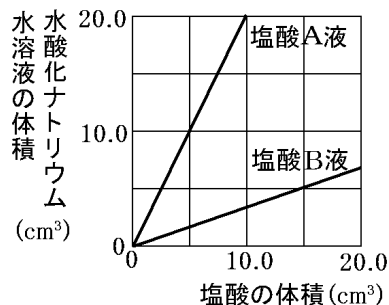
【】中和の計算問題

[問題]

塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えたときの水溶液の性質の変化について調べるために、次の実験 1, 2 を行った。この実験に関して、後の各問いに答えよ。

(実験 1)

濃度の異なる塩酸 A 液, B 液に、それぞれうすい水酸化ナトリウム水溶液を中性になるまで加えた。右の図は、中性になったときの、塩酸 A 液, B 液の体積と、うすい水酸化ナトリウム水溶液の体積との関係を表したものである。



(実験 2)

塩酸 B 液 25.0cm^3 をメスシリンダーではかりとって、ビーカーに入れた。このビーカーに BTB 溶液を 1 滴加え、さらに水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ 10.0cm^3 まで加えながら、水溶液の色の変化を観察した。

- (1) 塩酸 A 液 15.0cm^3 を中性にするために、この水酸化ナトリウム水溶液は何 cm^3 必要か。
- (2) 塩酸 A 液の濃度は、塩酸 B 液の濃度の何倍か。
- (3) 実験 2 のように、塩酸 B 液を入れたビーカーに、水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えたとき、観察された水溶液の色の変化として、最も適当なものを、次のア～エから 1 つ選び、その符号を書け。
 - ア 黄色から緑色になり、さらに青色に変化した。
 - イ 黄色から青色になり、さらに緑色に変化した。
 - ウ 青色から緑色になり、さらに黄色に変化した。
 - エ 緑色から青色になり、さらに黄色に変化した。
- (4) 塩酸 A 液 10.0cm^3 とこの水酸化ナトリウム水溶液 25.0cm^3 を混合したところ、アルカリ性を示した。そこで、塩酸 B 液をさらに加えて中性にするには、塩酸 B 液を何 cm^3 加えればよいか。

(新潟県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

[解答](1) 30.0cm^3 (2) 6 倍 (3) ア (4) 15.0cm^3

[解説]

(1) グラフより 5 cm^3 の塩酸Aを中性に中和するために必要な水酸化ナトリウム水溶液は 10.0 cm^3 であるので、(塩酸A) : (水酸化ナトリウム水溶液) = $5 : 10 = 1 : 2$ である。したがって、塩酸A液 15.0 cm^3 を中性にするために必要な水酸化ナトリウム水溶液は 30.0 cm^3 である。

(2) (1)より、(塩酸A) : (水酸化ナトリウム水溶液) = $1 : 2$ なので、 5 cm^3 の水酸化ナトリウムを中性にするために必要な塩酸Aは 2.5 cm^3 である。また、グラフより、 5 cm^3 の水酸化ナトリウムを中性にするために必要な塩酸Bは 15 cm^3 である。したがって、塩酸Aの濃度は塩酸Bの濃度の $15(\text{cm}^3) \div 2.5(\text{cm}^3) = 6(\text{倍})$ である。

(3) グラフより 15 cm^3 の塩酸Bを完全に中和するために必要な水酸化ナトリウム水溶液は 5 cm^3 であるので、(塩酸B) : (水酸化ナトリウム水溶液) = $15 : 5 = 3 : 1$ である。

したがって、塩酸B液 25.0 cm^3 を中和するために必要な水酸化ナトリウム水溶液は、 $25.0(\text{cm}^3) \div 3 = \text{約 } 8.3(\text{cm}^3)$ である。BTB溶液を加えた塩酸B液 25.0 cm^3 に水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていくと、最初は酸性なので水溶液の色は黄色であるが、水酸化ナトリウムを約 8.3 cm^3 加えた時点で完全に中和して、水溶液は中性になるので、水溶液の色は緑色になる。さらに、水酸化ナトリウム水溶液を加えるとアルカリ性になって、水溶液の色は青色に変化する。

(4) (塩酸A) : (水酸化ナトリウム水溶液) = $1 : 2$ なので、塩酸A液 10.0 cm^3 と反応する水酸化ナトリウム水溶液は 20.0 cm^3 である。したがって、塩酸A液 10.0 cm^3 とこの水酸化ナトリウム水溶液 25.0 cm^3 を混合すると $25.0 - 20.0 = 5.0(\text{cm}^3)$ の水酸化ナトリウムが残る。グラフより、 5 cm^3 の水酸化ナトリウムを中性にするために必要な塩酸Bは 15 cm^3 である。

[問題]

ビーカーA～Dに2%の塩酸をそれぞれ 5 cm^3 、 10 cm^3 、 15 cm^3 、 20 cm^3 とり、各ビーカーにBTB溶液を2、3滴加えた。次にビーカーの液の色が緑色に変化するまで、水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加え、その体積を調べたところ、次の表のようになった。

ビーカー	A	B	C	D
塩酸(cm^3)	5	10	15	20
水酸化ナトリウム(cm^3)	5.2	10.4	15.6	20.8

3%の塩酸 10 cm^3 を中性にするには、この実験で使った水酸化ナトリウム水溶液を何 cm^3 加えればよいか。表から求めよ。

(石川県(旧))

[解答欄]

[解答]15.6cm³

[解説]

3%の塩酸 10cm³の中に含まれる水素イオン(H⁺)の量は、2%の塩酸 10cm³の中に含まれる水素イオンの 1.5 倍である。したがって、3%の塩酸 10cm³の中に含まれる水素イオン(H⁺)の量は、2%の塩酸 15cm³の中に含まれる水素イオンの量と等しい。2%の塩酸 15cm³を完全に中和するのに必要な水酸化ナトリウムは、表より 15.6cm³である。

[問題]

試験管にうすい塩酸 5cm³とうすい水酸化ナトリウム水溶液 5cm³を入れ、緑色のBTB溶液を 1, 2 滴加え、試験管をよく振ったところ、BTB溶液の色は黄色に変化した。次に、うすい水酸化ナトリウム水溶液を 1cm³加え、試験管をよく振ったところ、BTB溶液の色は青色に変化した。その後、うすい塩酸 1cm³をこまごめピペットにとり、1 滴加えるごとに試験管をよく振り、うすい塩酸 1cm³を加え終わるまでのBTB溶液の色を観察した。BTB溶液の色はどのようになったと考えられるか、最も適当なものを、ア～エから選べ。

- ア BTB 溶液の色は最後まで青色のままであった。
- イ BTB 溶液の色は青色から緑色に変化し、最後まで緑色のままであった。
- ウ BTB 溶液の色は青色から緑色に変化し、次に黄色に変化した後は最後まで黄色のままであった。
- エ BTB 溶液の色は青色から黄色に変化し、次に緑色に変化した後は最後まで緑色のままであった。

(北海道)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

塩酸 5cm³、水酸化ナトリウム水溶液 5cm³では、BTB溶液の色は黄色なので酸性である…①。

塩酸 5cm³、水酸化ナトリウム水溶液 5+1=6cm³では、BTB溶液の色は青色なのでアルカリ性である…②。青色になった②の液に、こまごめピペットにとった塩酸 1cm³をすべて加えると、塩酸の合計は 6cm³、水酸化ナトリウム水溶液 6cm³で、①と同じく塩酸

と水酸化ナトリウムの体積比が1:1となる。したがって、塩酸 1cm^3 をすべて加え終わった時点では酸性で黄色になる。アルカリ性の水溶液に、塩酸を加えると、アルカリ性(青色)→中性(緑色)→酸性(黄色)と変化していくので、ウが正しい。

【問題】

塩酸 5cm^3 とうすい水酸化ナトリウム水溶液 4cm^3 を入れ、よくかき混ぜ、緑色のBTB溶液を2滴加えたところ青色になった。この溶液を中性にするためにうすい塩酸を1滴ずつ加え、よくかき混ぜた。3滴加えたところで溶液が緑色になった。緑色になった溶液全部を蒸発皿にとり、ガスバーナーで加熱したところ白色の固体が残った。白色の固体の質量をはかったところ $M\text{g}$ であった。次に、別の試験管にうすい塩酸 6cm^3 とうすい水酸化ナトリウム水溶液 3cm^3 を入れ、よくかき混ぜた。これにBTB溶液を2滴加えたところ緑色になった。この溶液全部を蒸発皿にとり、ガスバーナーで加熱したところ白色の固体が残った。この白色の個体の質量を M を使って表せ。

(富山県)

【解答欄】

【解答】 $0.75M\text{g}$

【解説】

塩酸に水酸化ナトリウムを加えると、酸性とアルカリ性の溶液がたがいの性質を打ち消し合う中和反応がおこる。このときの反応は、(塩酸)+(水酸化ナトリウム)→(水)+(塩化ナトリウム)

($\text{HCl} + \text{NaOH} \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{NaCl}$)である。反応後の液を加熱して水を蒸発させると、中和反応の結果できた塩化ナトリウム(NaCl)の白い固体が残る。

うすい水酸化ナトリウム水溶液 4cm^3 に塩酸を加えて過不足なく中和反応をおこさせたときにできる塩化ナトリウムは $M\text{g}$ である。したがって、うすい水酸化ナトリウム水溶液 3cm^3 を過不足なく中和反応をおこさせたときにできる塩化ナトリウムは、 $M(\text{g}) \times \frac{3}{4}$

$= 0.75M(\text{g})$ となる。

[印刷/他のPDFファイルについて]

※ このファイルは、FdData 入試理科(16,200 円)の一部を PDF 形式に変換したサンプルで、印刷はできないようになっています。製品版の FdData 入試理科は Word の文書ファイルで、印刷・編集を自由に行うことができます。

※FdData入試理科・入試社会全分野のPDFファイル, FdData中間期末(社会・理科・数学)全分野のPDFファイル, および製品版の購入方法は<http://www.fdtex.com/dan/> に掲載しております。

下図のような, [FdData 無料閲覧ソフト(RunFdData2)]を, Windows のデスクトップ上にインストールすれば, FdData 中間期末・FdData 入試の全 PDF ファイル(各教科約 1800 ページ以上)を自由に閲覧できます。次のリンクを左クリックするとインストールが開始されます。

RunFdData 【 <http://fddata.deci.jp/lnk/instRunFdDataWDs.exe> 】

※ダイアログが表示されたら, 【実行】ボタンを左クリックしてください。インストール中, いくつかの警告が出ますが, [実行][許可する][次へ]等を選択します。

【イメージ画像】



【Fd教材開発 : URL <http://www.fdtex.com/dat/> Tel (092) 404-2266】